

平成20年（2008年）紀北町12月定例会会議録

第 4 号

招集年月日 平成20年12月 8 日（月）

招集の場所 紀北町本庁舎議会議場

開 会 平成20年12月18日（木）

応 招 議 員

1 番	東 篤布	2 番	中村健之
3 番	近澤チヅル	4 番	家崎仁行
5 番	川端龍雄	6 番	北村博司
7 番	玉津 充	8 番	尾上壽一
9 番	平野倭規	10番	岩見雅夫
11番	入江康仁	12番	平野隆久
13番	島本昌幸	14番	中本 衛
15番	中津畑正量	16番	東 澄代
17番	松永征也	18番	垣内唯好
19番	奥村武生	20番	東 清剛
21番	谷 節夫	22番	世古勝彦

不応招議員

地方自治法第 121条の規定により説明の為議会に出席した者の職氏名

町 長	奥山始郎	副 町 長	紀平 勉
収 入 役	川端清司	総 務 課 長	川合誠一
財 政 課 長	塩崎剛尚	危機管理課長	中原幹夫
企 画 課 長	中場 幹	税 務 課 長	平谷卓也
住 民 課 長	谷口房夫	福祉保健課長	五味 啓
環境管理課長	倉崎全生	産業振興課長	中村高則
建 設 課 長	山本善久	水 道 課 長	村島成幸
出 納 室 長	長野季樹	紀伊長島総合支所長	橋本樹徳
教育委員長	喜多 健	教 育 長	小倉 肇
学校教育課長	世古雅則	生涯学習課長	家崎英寿

職務の為出席者

事 務 局 長	中野直文	書 記	脇 俊明
書 記	上野隆志	総務課長補佐	工門利弘

提出議案 別紙のとおり

会議録署名議員

21番 谷 節夫	22番 世古勝彦
----------	----------

議事の顛末 左記のとおりを記載する。

(午前 9時 30分)

川端龍雄議長

皆さん、おはようございます。

定刻に達しましたので開会いたします。

ただいまの出席議員は22名であり、定足数に達しております。

川端龍雄議長

それでは、これより本日の会議を開きます。

議事日程につきましては、配布いたしました議事日程のとおりでありますので、ご了承ください。

川端龍雄議長

それでは日程に従い議事に入ります。

日程第 1

川端龍雄議長

日程第 1 会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第 119条の規定に基づき、本日の会議録署名議員に、

21番 谷 節夫君

22番 世古 勝彦君

のご両名を指名いたします。

日程第 2

川端龍雄議長

次に、日程第 2 一般質問を行います。

本日の通告者のうち、谷節夫君から奥村武生君までの 4 人の一般質問を行います。

議員の発言時間は30分以内として運営いたします。持ち時間が残り 5 分になりましたら、議会事務局長の机の前に黄色のカードを立て、質問者に対し周知することになっております。

一般質問の形式については一問一答方式とするため、会議規則第55条のただし書きにより、質問の回数は特に定めないことといたします。

なお、質問の方法であります。まず最初に登壇して通告した事項すべてに対して質問をしていただき、執行部の答弁のあとは自席にて質問することを許可いたします。

それでは、21番 谷節夫君の発言を許します。

21番 谷節夫議員

皆さん、おはようございます。12月紀北町議会定例会一般質問通告に従い、議長の許しを得て、紀伊長島区前浜振興計画について質問いたします。

私は、元来ずっと地域振興にどうしたらいいかということに携わって、一般質問も今までいろいろしてまいりました。最近、テレビで見る限りには、百年に一度の不況ということで、実は内需拡大ということがテレビや新聞でもよくその文字を見ます。そしてテレビでも聞きます。

隣の国中国では、オリンピックが終わって非常にその不況になって、今度その内陸部とか、その農業者がテレビを購入するために国が12兆円、5年間で12兆円、テレビが 630円で、約日本の価格にすると 8,200円、それを13%国が補助して、5年間で13兆円のその農家にテレビを買うための補助をやってですね、そして内需拡大を図ると、こういうニュースも出ております。

もちろん国内でも、その内需を拡大しなければやっていけない。今日、ホンダが発表することによると、自動車の売れ行きが落ちていると、そのためにどうしたらいいか、そしたらハイブリット車というのですか、そのエコの電気で走る車を京都のユワサという会社と提携して、そしてまた大資本を投入して、そうした内需拡大に燃料の要らない、そうした自動車をこれからつくり上げていくという、そういう発表もしております。

また、今日のニュースでは皆さんもご存じのように、1ドル87円という、13年ぶりの円高になって、ますます輸入国である日本の経済が非常に懸念されているところであります。私

は、紀伊長島前浜振興計画についてでございますけど、実は紀伊長島区紀伊長島前浜振興計画は、平成6年に旧長島町において作成された構想としては、非常に莫大な事業費でやろうと計画してました。

ところが、厳しい社会状況の中で、日の目を見ることなく事業が実現できなかったのであります。そして私は皆さんもご存じのように、この20日から行われる年末港市、それに約去年は8万人、今年はこれも先人の達成してくれたですね、レクリエーション都市の名鉄ホテルにおられました支配人のお名前は言うてどうか、村瀬さんという支配人がですね、今、名鉄観光の社長になってるわけです。これも本当にその紀北町にとっては有り難いね、第三セクターで失敗はしたものの、でもそうした人たちがですね、上になって今度そのバス会社からバスとともに1,000人のお客さん連れてきてくれるという、情報も聞いております。

そうした中でですね、私はこの前浜振興計画は一体どうなっているんかということで、実は町のその産業振興に尋ねたところですね、意外なことが出てきたわけです。それはどういうことかと言いますと、実はですね、前浜地区の産業振興とその住民の憩いの場をつくらうということで、合併前の平成16年度に検討委員会が立ち上がり、町長が諮問しているんです。

その中で、検討委員会がその莫大な予算に伴う事業でなくて、時代の流れや消費者の生活感にあった事業計画を基本とした前浜地区の水産業の振興と、住民の憩いの場と、そして来訪者の交流の場として整備する基本構想がとりまとめられて、答申を受けていることを知ったのであります。

その資料を入手したところ、産業振興課から入手したところですね、それはまさに今、紀北町のね、時代に合った計画であるということで驚いているところでございます。この紀北町の合併前の答申を受けたその計画を、そのときの町長でありますので、今の奥山町長は。自分の胸の中に秘めたまままで合併をしてですね、そしてその計画はまだ今、まぼろしになっているわけなんです。

そこで町長にお尋ねしたいのです。一体、この計画の答申を受けたままね、葬ってしまうのか、それとも今、その内需拡大が叫ばれておる中で、この計画を掘り起こしていくのか、どういうおつもりでいるかね、それをひとつ聞かせてください。

それから、これに関していろいろと、その計画立案を立てるに至ってですね、私は是非していただきたいということは、自席に戻ってから町長に質問をさせていただきます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

おはようございます。谷議員の質問にお答えいたします。

長島港の魚市場に隣接する前浜地区の振興計画は、平成6年度に前浜地区周辺開発整備構想として策定されましたが、計画事業費が巨額であったことから、厳しい社会状況、経済事情等により進展しませんでした。

その後、費用対効果等を見直したうえで、もう一度計画を策定すべきとの意見が出されたことを受け、旧紀伊長島町においての平成16年度から平成17年度にかけて、検討委員会で十分ご検討いただいたうえで、再度、町にご答申いただきました。

その内容としましては、議員が言われるように、膨大な予算が伴う事業でなく、時代の流れや経済動向、消費者の生活感に合った事業計画を基本として、前浜地区の水産業の振興と住民の憩いの場、地域住民と来訪者の交流の場として整備するというもので、施設の概要としましては、地元海産物、農産物を食材とした料理を提供できる食堂、海産物を主とした地域産物等の販売施設、海産物の加工体験等ができる施設、漁業、漁村文化に関する展示室、住民来訪者のやすらぎや交流のための足湯場、また地域産物を中心とした物産市や交流ができる多目的広場などが上げられておりました。

さて現在、前浜地区には、町内外から多くの入込み客が訪れております。特に、燈籠祭、毎月開催されている港市、年末港市には、平成19年度で16万7,000人の方が訪れております。そしてさらには釣り客等も多く訪れておりますので、この長島港周辺に訪れる人による経済効果は大きいものがあると思われまます。

この計画を実施することは、さらなる入り込み客数の増加につながるものと考えられますが、この計画をそのまま実施することは、今の財政状況では難しいものがあります。さらにはこの計画策定後には2町の合併や高速道路の建設等、紀北町を取り巻く状況が大きく変化していることなどから、今後、町の財政状況や町全体への波及効果等も十分考慮し、慎重に検討、対応してまいりたいと考えております。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

町長ですね、考えておられるということで、ボツにすることはないわけですね。それでですね、前者議員が質問された高速道路が延びてですね、その中で紀北町がですね、もちろんそうした南三重、つまり熊野から紀北町、あるいは大台町、大紀町までですね、そうした中

のやっぱり共同してですね、そうした東紀州、南三重の発展を遂げなければいけない。それも町

長も承諾しておりますね。

ですから、私はそんな中でいろいろと質問者、あるいは回答する町長の話聞いてですね、やはり1つはそうした共同でしていかなければいけないけど、やはり独自のですね町の姿と
というかね、やっぱり町のブランドというか、町がそうして紀北町の住民が本当にそこで働いて、ものをつくって販売して、そしてそこで遊んで、そういうですねまちづくり、これは町長お考えになったことないですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

地域に根ざした産業振興は、非常に大事だと思っておりますので、例えば今のやっておる港市はですね、月々の港市、それから年末港市はそれに、考え方に合致するものであると考えてます。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

私は港市のですね、そのテントでやるやつを、常設した、簡単ないいやつで建ててくださいというお願いもしているわけですね。これは私ばかりじゃない、皆紀北町のそれが願いなんですね。ところが私もそうしたプロセスがなくてですね、その建てよ建てよだけではないかと思ひまして、実はその計画の中でですね、こうした計画図があるんですけど、これがやっぱり今、漁業組合の傍にあるですね、土地をその建設場として指しているわけですね。

それで、町長にお聞きするんですけど、実は私は調べたところですね、やっぱり質問の中で観光ゾーン、観光するにしてもそうしたものをつくるにしても、やっぱり合併してから、地形が長くなってですね、やっぱり海山と長島にリンクしたものを建てながらですね、両町を発展させていかなければいけないと、私はそう思っているんです。

そんな中で、やっぱり川は銚子川、赤羽川、それから山は大台山系をもとにいろいろと楽しむところがあります。それから海を見ればですね、海山区には本当に釣り場として発展を
どんどんしている矢口湾、それから白石湖ありますよね、それからまた引本湾も素晴らしいです。それから長島のもちろん前浜、大名倉、小名倉、いっぱいあるんですよ、レク都市

の季の座周辺の海水浴場と、もう上げればですね、いっぱい観光地が詰まっているんですね。

そんな中で、新聞等でも言われておるように、海山漁業組合が10億円以上の負債もあると、長島の漁業組合はちょっと私も調べてないんですけど、おそらくそんな額がある。そんな中で、やはり段々と外湾合併ももう音を立ててね、やっぱり近づいてきていると思うんです。

そのときに、やはりそうした計画を立てた土地がですね、もしきちんとしてないと、やはり合併するときに皆その単体の漁業組合は全部スリムにしてですね、やっぱり合併を迫られると思うんですね。そうするとその計画地がなくなる、ここが大事だと思うんです。町長、その辺どうお考えですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員のご質問の中で、合併、漁協合併のことも言われたんですか。関連してね。

いろいろ議員が町の魅力という、ある材料をいっぱい言うていただきました。そのとおりだと思っております。国道が高速道路になり、これまで言われているストロー現象にならないようにですね、町内の魅力をつくっていくことについては、いろんなその魅力を磨いていくのが必要とされておりますけれども、その魅力をですね全体的に、全体的というか、大きなブロックの括りの中で磨いていくのか、それぞれ磨いていくのかということも考えなくてはいけません。

ですから、今の議員の根底の中には、港市の代表者にもなっておられる方ですから、その辺の視点もあろうかと思っております。それはそれで、そっから発生した港市の発生した前浜に根づく施設を考えるのか、もっと広い意味での町内を集約した施設へと考えていくのか、その辺も検討が必要だと思っております。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

町長は、本当にこう理解をしてくれているんですよ。でも、理解をしても行動に移さなければいけない。そのためには建物を建てよ建てよと言っても、建てる場所が必要ですよ。それを私は考えたわけなんです。それじゃ場所は必要かと言ったら、私もいろいろと紀北町一帯をやっぱり高速道路のここまで迫ってくる高速道路、それから町の人が集まれる場所、食べて飲んで、そして海を見て楽しんで、そうした1日を過ごせる場所、どこだろう

かと考えると、やっぱり今その、基礎的にね、ものを考えると、やはり紀伊長島区の前浜が一番最適じゃないかと、こう思っているわけなんですね、自分自身が。

そしてまた、そのリンクしたそうした関係の釣り場所として、やはり海山の漁協が持っている、あの長浜の船降ろし場の1,000坪のところ、そこもまた最適なんですね。

そして私は、やっぱり長島の町の人とこういろいろと浜へ行ってお話をしているとね、あと5年経つともう後継者もなくなってくると言っているんですよ。エビ網をやっている百ワットの漁船もですね、本当に少なくなると、段々と後継者がなくなっているんです。だからその捕ってきた魚がもっと高く売れてね、そして希望が持てるそういう漁業ができる。そしてまたご存じのように、いさばやさんも非常に厳しくってね、段々と減っているわけですよ。これはもう紀北町全体の商いが海山漁業組合で10億円を切っている状態、あるいは長島漁業組合も当時町長なんかがやってたときは、やっぱり44億円から45億円水揚げしていた。

ところが、それが10億円少しの水揚げになっていった。もう疲弊しきっているんですよ。やっぱりそこで何かこう活力をやらなければいけない。員外船が入ってきた。そしたら員外船がどんどん降ろしたら、お風呂へも入って、自分の船で使う仕込みもできて、そんな場所をつくらなくって、これもう長年言われてきているんですよ。だから今まさに、その内需拡大とともに、私が思っているのは、そうした開発をしてですね、そして絵に描いたこんなもう大きな額でなく、まず私の今日の質問の焦点はね、その何をしてほしいかと言うと、やっぱり土地をまず町で確保できないかということなんですね。

それは、私はここと、ここって決めるわけにはいかないんですけど、でもとりあえず今、町長、その長島の漁業組合と海山の漁業組合、これ利子補給してますよね。長島の漁協には6,000万円、年間600万円、それから海山の漁業組合には500万円、1,100万円、これはどちらの旧町のときも、あるいは新町になってからでも、やっぱりその漁業組合の体質をですね、売れるものが売って、それからいろいろと企業努力をしながらですね、やはりその漁業組合自身が改善していくというね、そうしたものの考え方をやっていかなければいけない。町長はこの漁業組合のですね、利子補給をどうお考えですか。どこまで、これ10年間続けるんですか、町長。

ということは、これ10年続けることによって1億1,000万円の利子補給やっている。じゃその中で、どんな改善されてるんか、これ毎年毎年あたっているのか、その辺を明確にちょっとお答えください。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

2つのご質問があると受け止めてますが、1つは土地の確保、それは物販だとか、あるいは住民の安らぎの場所だとか、それは産業振興と福祉ですね、それについてはあれですね、土地を何のために、何をやる、そこでどうする、いつやるというようなことが決まってないと、議会にも説明できませんし、町民の皆様から理解が得られないのではないかとこのうふうに思っています。

それから、利子補給につきましては、海山漁協に対しては23年が10年目にあたります。それから長島漁協に対しては26年ということになっておりますが、これはどの程度の漁協の支援につながっているかは、なかなか計り知れないけれども、これは今の現状を見ておきますと、漁協のほうではそれは歳入として十分補助金としてですね、カウントしているというふうにみえます。ですからこれを今、財政が厳しいんで、これを切り上げるとかということは、現在のところですね、考えておりません。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

あのね町長、私はその利子補給しているの止めよとか、続けよとかという、今そんな質問してないんですよ。これだけの年間、その1,100万円の利子補給をしている、そういうお金をね、やっぱり漁業組合にその真から、この利子補給をしなくてもいいようなね、そうしたその対策はできないか。もちろん最近ではうちの町でも道瀬の組合が解散、そして漁業組合が1つ消えて、前者質問にもありましたように、リゾートのダイビングもですね、もう消えてしまっている状態なんですよ。

そんな中で、やっぱり私はこれは、私の質問とちょっとここには触れて、入り込む気持ちがないんですけどもね、やっぱりそうしたお金を援助するんであれば、援助するとともにね、やっぱりどうしてこの援助していることがね、やっぱり効果が上がるんかということ、真剣にこれ考えていただきたいということで、ここにちょっと質問挟んだわけなんですけどもね。

ですから、私はこれは誤解しますよ。漁民のそうした利子補給も止めるんかと誤解されると思うので、この辺もうひとつお答えください。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

私もちょっと聞き違えた点もありますから、議員は利子補給の結果、それが効果があるように何かほかのことも考えよという意味ですね。はい、わかりました。

それと関連して、今のご質問にお答えいたします。漁協の存続ということは、町内のですね基幹産業として我々は位置づけております。これが衰退することは町の経済産業が衰退することにつながっていくと思っております。それは県においても、国においても水産振興、産業振興はですね、大事としてですね、外湾の漁協をひとまとめにした合併を推進しようとしております。これも大きな深い意味があると、私は認識しております。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

町長がおっしゃるようにね、国自体もその道州制ですね、小さな国づくりに向かってやっている。だから町もですね、本当にこの町の特性を生かして、やはり紀北町自体が生き延びられる、そうしたものづくり、その紀北町まちづくりもやらなければいけないと思うんですよね、町長。

ですから、今までずっと同僚議員が質問してきた中でですね、お金の要ることばかりなんです。当然、私もこれお金の要ることを質問しているんですよ。そうすると町長が金がない、金がない、予算がない。予算がないこともないですよ。基金も増やしているし、債務も減らしている。やり方によったら国は今度は88兆円の予算を付ける。また補正でもすごい予算を付けて、1兆円の交付税も地方へ発信すると言ってます。やっぱりこれは知恵を絞ってですね。こうしたこの前浜計画を国や県はどんなメニューを持ってね、やっぱり地方を活性化さすか、特に三重県ではこの南伊勢、東紀州、我々の土地にね、今すごくいろんな面ですね、日が当たろうとしているわけですよ。

ですから、私は最初に言いましたように、町長の回答は知っております。やろうと思っておりますじゃなくて、本格的にね、この前浜計画ね、前浜計画を全面に出して、議員にもこれを答申をですね、受けた答申を町長はどのように理解してね、そして合併も落ち着いた。議長が言われるように、議長がこの12月で新議長ができた。そして来年の11月まで3つ大きな課題がありましたね。1つは産廃問題、これはまた継続していかなければいけない。それから1つは庁舎問題、これは決定しなければいけない。この12月議会終わったらヒアリング

して、どんどんと予算付けをしていかななくてはいけない。

それともう1つは、町長選挙、大きな行事ばかり3つあるんですよ、町長。そうすると奥山町長は、私は思うに、紀伊長島時代に自立を叫んできた。これは産廃問題も海山町さんに迷惑をかけてはいけない。あるいは私は胸の中にこの計画もあったんじゃないかと、今気がついたんですよ、町長。だから町長は胸を張ってね、今度のまた町長選に挑むんであればね、やっぱりこうした紀北町全体です、こうした計画をね、表へドーンと出してきてです、やっぱり前者議員のRDFも1つにしたほうが、何千万円、何億円の金が軽減されるじゃないか、もうちょっとね道路網もきちんと、これから町は高速道路に従って、どんな道が必要なんかということも必要じゃないですか、あるいはこの紀勢高速道路が延びてきたら、紀北町はこうしなければいけないじゃないか、福祉はどうするんだ、全部お金の要ることを質問しているんですよ、町長。

あなたはこの合併特例債もですね十分に考えて、学校の耐震とかそうしたことをどんどんやっていかなければいけない。町長、この計画をですね、答申をきちんと一遍、もう一遍見直してですね、これもきちんとこれ記録されている、こんだけの大きなプランがあるんですよ。私は本当にこれ胸をおどらしたんですよ。全く今、私が要求している計画ともうそのまま行ける計画なんですね。これが5億円かかるか10億円かかる知らないけども、わずか本当に、わずかな金でやれる時代なんですよ、これは。どうですか、町長、その辺を、できれば明確にお答えください。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員が、言わば第2回目の前浜計画のことを言ってらっしゃると思います。それはさきほども申し上げたとおり、今後、町の財政状況や町全体への波及効果等も十分考慮し、慎重に検討し、対応してまいりたいと考えておりますというふうに、答えさせていただきましたので、その辺でおくみ取りをいただきたいと思います。

これを全然やめるとか、やめないとかを言っておりません。とにかく町の魅力、町を良くしていくための施策をいろいろあれこれいただいておりますので、その中で時代に合った、また町の財政に見合ったものをしていきたいという考え方があります。

さきほどおっしゃった議員の財政に対する考え方ですが、確かに負債残高も減りました。それから基金が増えました。しかし、その増えた時点、残高が減った時点で全県下の市町を

比較されますと、まだ中位どころか下位のほうに低迷しているということを、ご認識を願いたいと思います。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

町長、この間の南海日日にね、尾鷲市のお隣の市のことが出ているわけなんです。負債額5億8,000万円で何々経費が何パーセント、何々比率がどんだけというようなね、もちろんこれは我が町もですね、非常にその財政に苦しい。特にこの南三重という東紀州全体ですか、このやっぱり格差のあるですね、我々町が非常に厳しいことは、これはわかっております。

しかし、振り返ってみると、紀北町もですね、そのレクリエーション都市計画で再建団体に入った。ところが今、私が申し上げたように、このレクリエーション都市計画というのと、高速道路のね、やっぱり延長とどうつなぐんだと、前者議員もこれ本当にもう質問していますよね。ですから、私はそうした先人が残してくれた遺産をね、やっぱりこれは負の遺産じゃなくて、もう素晴らしい身のあるこれ遺産を残してくれてますよ、こうした事業をね。

ですから、私は町長にね、町長は前向きにて、前向きにという言葉も入れなかったですけど、何か計画してやっている。町長、紀北町がね、今どんな状態かご存じでしょう。町の博物館とか、町の図書館とかいろいろ言われてますけど、私は今回ある大きな海山区の本屋さんも閉店する。これは私はその学がないからこんなこと言うのはあれですけど、やっぱり町の図書館が消えるのと一緒だと思っているんですよね。仮に立ち読みにしたって何読みにしても、やっぱり書物に触れるという機会がもう全然なくなる。こんどはあるホテルが閉鎖した。ところが運良くそれはトンネル工事の大きな会社がですね、そこを5年間借りてですね、飯場にするというような情報も入っております。

それを考えるとね、今、紀北町はやっぱり日本中が沈みかけているときに、必ずその世界を見渡せばね、やっぱりアメリカの大統領も30%の黒人から選ばれた。これは大きな出来事であると報道している。やっぱり中国は中国でそういう内需拡大を図ってですね、国自体が強くなろう。日本もそう言っている。これ町長必ずリバウンドは来ますよ。違いますか。

百年に一遍の不景気であれば、百年に一遍の景気はまたリバウンドして必ず来ると僕は思っているんです。だから町長、この3月のですね、次の3月の議会にはよくよく検討していただいてですね、私は以前からお願いしている、その前浜計画、やっぱり年末港市には8万人来る。今年は10万人来ると皆期待している。それからここには少な目に書いてありますけ

ど、私は月港市もこれは10万人から12万人来ると今、確信しております。そうするとこれだけで20万人、それから燈籠祭は10万人、5万人から10万人に増えるかもわからん。

ということは、この港市にちなんで、その七夕まつりだとか、海山区のほうでいろいろとやっている。海山inオートキャンプ場もやっぱり成功している。これ皆そんなに悪い情報ないですよ、町長。だから町長胸張ってですね、この3月にはね、是非この前浜計画をどのようにするか、これ議会にもね、本当にこんな計画あったんだということを示してほしい。どうですか、町長。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

来年の当初の予算について、前浜計画を入れろというようなご要望が趣旨だと思いますけれども、それはまだ、ここで答弁することはなかなか難しい。よく検討しますということは、もうすでに何回も言ってますんで、それも時期がいつかとか、いろんなことがあります。とにかくこの紀北町がですね、大きな転換期、この高速道路、近畿自動車道紀勢線が供用される時点で、大きく変わってくるだろうという認識は持ってます。それも1つの節目ととらえてですね、それを目指してどのような町のまちづくりをするんか、魅力を磨いていくんかという視点で努力したいと思います。

川端龍雄議長

谷節夫君。

21番 谷節夫議員

ガソリン税をね、一般財源に入れるという、国の大きな方針も変わってきましたね。何もかもね、今本当にオバマさんじゃないけどね、チェンジ、いろいろと変わってきているんですよ、考え方も、国も地方も。私はやっぱりバランスのとれたね、やっぱりそうした政治をやっていかなければいけないと思うんです。それは1つの町であってもね、私ら議員もやっぱり政策を考えてなければいけないと思うんです、町長。

ですから、これは検討しますという返事をいただいてですね、真剣にもう一遍見直してくると私は理解してね、この質問を終わらせていただきます。

川端龍雄議長

以上で、谷節夫君の質問を終わります。

次に、13番 島本昌幸君の発言を許します。

13番 島本昌幸議員

13番 島本昌幸、平成20年12月議会の一般質問をさせていただきます。

町主要道路、特に町道ですが、町道の清掃、除草の予定についてお聞きしたいと思います。
年末年始を控えて雑草がぼうぼうになっている町道の除草作業を年内は予定しているのかどうか。

紀伊長島支所に建設課の現業職員が駐在していて、町内の除草作業等も職務に含まれると聞いているが、年間を通じてこの除草作業の日程、路線等計画的に行っているか、お聞きしたいと思います。

続きまして、町道相賀小浦線の整備についてお聞きします。

見千代鼻踏切から汐見橋まで、船津川沿いに直線コースとなっておりますが、桜並木の土手下にも並行して道路があって、60人ほどの小中学生の通学路となっております。上下の道路間は雑草がぼうぼうになっておりましたが、私自身と建設課との思いが同じだったとみえまして、この一般質問の通告書を提出しましたあくる日に、綺麗に除草していただいております。

この上下の道路間は桜の木が植えられておりますが、転落防止のガードレールがありません。過去、上の町道から下の通学路へ車両が転落して、人身事故が発生したという事例は聞いておりませんが、新直轄道路が開通すれば、交通量は倍増するものと思われまして、現在は工事用道路として使用され、多い日は生コン車やダンプカーが100台近く往来します。今後の安全対策をどのようにお考えか、お聞きしたいと思います。

3番目に、相賀小学校改築の進捗状況をお聞きします。

紀伊長島区志子小学校は、改築時に屋内運動場を高床式にしていると聞きましたので、視察させていただきました。この志子小学校を高床式にした要因をお聞きします。相賀小学校屋内運動場を高床式にしたかどうかという意見を私出しましたんですけれども、9月議会ではできないという回答でございました。その詳しい理由を再度お聞きしたいと思います。

以上です。再質問は自席にてさせていただきます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

島本議員のご質問にお答えいたします。

1点目の年末年始を控えて、主要町道の清掃、除草予定は、のご質問でございますが、町

道の除草作業につきましては、議員の言われる年末年始を控えて、特別な作業は予定しておりませんが、除草等の維持管理につきましては、随時、担当課の判断で実施している状況でございます。

また、建設課現業職員、直営班による除草作業の年間を通しての日程と、路線等計画的に実施しているかのご質問でございますが、現業職員の業務につきましては、町道の除草のほか、舗装修繕、河川、排水路の清掃、道路、河川等のパトロールのほか、産業振興課、学校教育課等の農道、林道、幼稚園、公民館などの管理業務の支援も行っています。

このように業務範囲も広いことから、町道の除草作業につきましては、年間を通しての計画が組めないのが現状でございますが、これまでの実績により、担当課の指示や現場職員の判断、地域の要望等により、適時に実施している状況でございます。

議員のご指摘につきましては、貴重なご意見として承り、今後においても適切な町道の維持管理に努めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

次に、2点目の町道相賀小浦線の整備についてお答えします。

相賀小浦線と平行する町道、相賀桜町1号線に車両が転落して人身事故が発生したという事例は聞いていないかのご質問でございますが、尾鷲警察署交通課に問い合わせをしましたが、幸いにもそのような事故の記録、過去5年間はございませんでした。

議員がご指摘のガードレールの設置、除草作業、水溜まりの解消等についてでございますが、相賀小浦線と通学路、つまり相賀桜町1号線との路面の高低差は平均1.5mほどでございます。この区間、延長約210mは議員もご存じのように、桜並木、桜が約30本、その他10本がありまして、この桜並木が防護柵の役割も果たしている状況もでございますので、桜並木の保存を基本に、地域のご意見もお聞きして、さらに高速道路の開通後の交通量の増加も視野に入れ、ガードレール設置の必要な箇所があるかの検討をしたいと考えます。また、除草作業、水溜まりの解消につきましては、今後も、適切に維持管理に努めたいと考えますので、ご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

次に、相賀小学校の進捗状況についてお答えいたします。

ご質問の志子小学校は、昭和60年の建築でございまして、屋内運動場につきましては2階部分に設置いたしております。この建築方法につきましては、志子小学校の敷地面積によるものでございます。現在の敷地面積に運動場を確保いたしますと、校舎及び屋内運動場を並列して建築することは不可能でありました。

したがいまして、屋内運動場を2階に設置することで、屋内運動場の下の空き地の一部を駐車場として利用し、また残りの1階部分には、校長室、職員室、用務員室、給食室等が設置されており、限られた敷地面積の中で工夫し建築されたものでございます。

相賀小学校の屋内運動場につきましては、当校には十分な敷地面積がございます。屋内運動場を現在の位置に建築することにより、運動場との一体感が図れますし、今回の設計には、運動場に面する部分に縁側を設けることで、子どもたちの憩いの空間としての環境整備も図っております。また、学校からの要望も十分お聞きしております。

水害対策としての嵩上げにつきましては、屋内運動場を嵩上げすることで、確かに避難所としては十分な機能が果たせると思いますが、学校教育を行ううえで、通常の授業や学習環境等に、不便や支障が生じるものと考えております。

相賀小学校への避難といたしましては、まず屋内運動場への避難を第1次避難と考えますが、水位の状況により2階に避難を行っていただきます。屋内運動場から校舎への移動につきましては、屋内運動場の2階部分から直接校舎2階への避難が行えるようにいたします。

また、気象状況によりましては直接校舎2階へ避難していただくことで、校舎2階部分を全て避難所として活用できるものと考えております。避難場所としての活用を図るうえで、屋内運動場の2階部分に防災倉庫を設置し、避難場所としても利用できるスペースも確保いたしております。周辺地区の皆様には、避難所としての利用も十分に周知いたしまして、安心していただけるよう努めてまいりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

まず、町道等の除草、清掃作業ですが、帰省客が多い5月の連休前とか、盆前、この正月前ですね、皆さんご存じやと思うんですけど、花の名前付いた機関紙がありますが、そこでも以前載ってましたけども、この町はよほどお金がないかして、他所から来た人がえらい草ぼうぼうの町やなというようなことを書いてました。やはりこれも個人差あると思うんですけども、私らは山の中へ住んでいるんですから、草ぼうぼうで当然なんですけれども、やっぱり住居あるというんですか、自分らが住んでおるところぐらいは、やっぱり綺麗にしておきたいですね。草ぼうぼうのところに誰も住みたくないです。

ですから、その辺のところですね、やっぱり環境美化というのんですか、やっぱりもう少し意識持ってほしいと思うんです。それでさきほど言いました、その帰省客が多いとか、この

町へお越しいただく人が多い前にですね、やっぱり奇麗に除草しておくべきじゃないんかと思うんです。ですから、その盆前とか5月の連休前というのは、もう日にちが決まっておるんやで、これは日程としては計画できると思うんですがね。いつやるやらわからんでは。

ですから、今年でも5月の連休のときは今申しました、町道小浦線、相賀小浦線は草ぼうぼうでしたです。ちょっと他所から来てくれる人に見てもらうには、ちょっとはずかしかったですね。ですから、ここはそれと、この町道相賀小浦線は今、本庁になっている旧海山町役場ですね、この本庁へ来る国道42号線から主婦の店へ入ってきて本庁へ来る経路になっておるわけです。知事もお越しになるかわからんしね、この道を通ってくるわけですから、紀北町というところはえらい草ぼうぼうやな、これは必ず思われると思います。やはり本庁への経路ですので、そこぐらいはやっぱり奇麗にさせていただきたいと、そのように考えます。

ですから、後程でいいですから、建設課でですね、紀伊長島区含めて主要道路は何月にはどこどこ清掃させてもらいますとか、便ノ山の権兵衛の里までの経路をやるとか、和具の浜のほうをやるとか、やっぱりいろいろ計画立ててほしいと思うんです。

それと、町道相賀小浦線ですけれども、この新直轄道路の汐見のほうの前柱というところへ、その高速の高架の台ができますので、コンクリートミキサー車やとか、生コン車ですね、生コン車やらダンプがたくさん通るので、汐見区としては通学路をちょっと変更して、船津川の土手沿いを通学路にして汐見橋を渡ってこの町道の相賀小浦線を通して、踏切渡って相賀小へ行くようになっておるんですけども、汐見のほうは通学路を変更したんですけども、この相賀小浦線は相変わらず同じ道通っておるわけです。

それで昔はですね、桜の木が植わってましたんで、これがガードレール代わりになっておったわけです。まだ枝も茂ってましたですし、ですけども、この桜の木がもう古木になってきてまして、幹がぐっと高くなってきましたんで、町長もこの毎日のようにこの役場へ登庁されるのに、船津川沿いのこの相賀小浦線を通して右側をご覧になると、もう大分その桜の木と木の間が空いてきてまして、大分隙間が空いてきましたね、2 m以上あるところもあります。直線コースだけにスピード出してますので、ひとつ運転を誤るとそのまま通学路へ突っ込むということは、もうこれまでなかったというのがおかしいぐらいで、想像したくない事故が起きる可能性もまた出てきてますので、何とか早目に対処していただきたいなと思います。町道に関しましては以上です。一度検討していただいて、再度、町長のちょっとご意見、ご意向をお聞きしたいと思います。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員の一番最初はですね、桜町通りは本庁舎への経路であると、確かにそうでありまして、そこについては特にいろんなお客さんも来るし、町の行政が徹底しているのか、細部に目が届いていないのかというような評価点にもなるという、ご指摘をいただきました。

それから連休とか、それからお盆というのは日にちが決まっておるということでございませし、その点にも留意して担当課へ一応その検討をするように指示いたします。よろしいですか。

次に、相賀小浦線の通学路等に鑑みてですね、桜並木とかほかの10本ぐらいの中程度の樹木が古木化して、隙間が空いてきておるんで、あの辺の議員がおっしゃるのはガードレールのことだと思いますね。主としてですね。その辺のことについても、さきほど申し上げましたように、検討するというふうに申しております。どうぞご理解をいただきたいと思います。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

その相賀小浦線ですけれども、桜の木がありまして、春はですね桜が満開になって綺麗なんです。散策路というのですか、散歩道ならそれいいんですけれども、この新直轄道路の工事が始まりましてから、交通量というのがものすごく増えておるように思うんです。大型車両が多いですし、スピードなんか制限してませんからお構いなしですね、そこを7時半から8時台に40～50人の児童、それから中学生の生徒が通学しますので、やっぱりガードレールというのが必要になってきたんじゃないかと思うんです。昔は桜並木がガードレール代わりになってて、桜が咲いていい通りでしたんですけれども、ちょっと今は大分危険になってきているように思いますので、早々にこれは対処していただくようお願いします。

続きまして、相賀小学校の改築の件ですけれども、志子小学校の経緯はわかりました。私ちょっと志子小学校のほうへ行きましたら、赤羽川が近いんで、この赤羽川が越水したときに、周辺住民の人なんか避難するのに体育館を高床式にして、そこで安心して避難していただくために、高床式にしたのかなと思いましたがすけれども、敷地が狭くて駐車場もほしいということで高床式にしたということがわかりました。

相賀小学校の校区というのですか、相賀6区なんですけれども、ここには偶然でしょうけれども、町議会議員が8名いるんです。海山在住の議員というのは11名おるんですけれども、そ

の中に8名がこの相賀小学校の校区へ住まわさせていただいております。その中でどうですか、7名ぐらいが皆水害に遭ったわけですがけれども、この相賀小学校9億円の事業ですがけれども、この議員が何もこの建設委員会というのか、あったんかないんか知らんけれども、お声がかからなかったと、意見が述べられなかったというのを非常に残念に思うんですがけれども、これはどうしてなのか、町長に先にお聞きしたいと思います。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

この建設委員会にお願いをすることについてはですね、専門家等を中心として、それから住民の方々、それからPTA等の方々に軸足を置いたわけで、議員の皆様方には別個に計画を説明いたしまして、ご意見を賜るのが筋ではないのかという考え方があります。ご理解をいただきたいと思います。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

確かに、全員協議会で説明ありましたですね、このときはもうすでに図面ができてました。高床式も私も考えたし、雨が多いいところですから、明かりとるのにあんな屋根ではどうかなという考えもありましたけれども、全員協議会、あれ9月の議会前でしたと思います。それから3ヵ月経ったんですがけれども、もう全員協議会ないですね。この相賀小学校の改築に関して、議員が意見を述べる場というのをつくってもらっておらんわけですがけれども、これはどういう理由なんですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

その辺のところは私が答えて、常任委員会でも説明したということを私も聞いておりますが、よろしいですか、教育委員会のほうで詳しくご説明できます。

川端龍雄議長

世古学校教育課長。

世古雅則学校教育課長

ただいまの議員さんのご質問なんですけれども、相賀小学校につきましては、建設前に小

学校の建設検討委員会というのを立ち上げまして、そこでそのメンバーなんですけれども、そのメンバーにつきましては校長先生をはじめ、あとPTAの役員の方、それから地域の代表、防災の代表の方等におきまして、校舎と屋内運動場の改築計画の概要書とか、また改築設計協議、コンペということでやっておりますので、それで設計条件等を示しまして、それでもってやっております。その設計条件の中にですね、いろいろとこの地域のことも含めまして、それでもって設計書をつくっていただいております。

それで、今現在なんですけれども、実施設計を設計業者に作成していただいているというような、そういう状況でございます。地域の方々の意見も聞いて、代表の方の意見も聞いて、学校教育現場の方の意見も聞きまして、詳細な設計をしておるとい、そういう状況でございます。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

ちょっと私、この一般質問の通告書を出しまして、教育課のほうにちょっと話を聞いたんですけど、その屋内運動場、体育館ですね、ちょっと設計変更もしたというようなことも聞いたんですけども、やっぱり全議員に周知するために、今後、その相賀小学校改築についての全員協議会というのは持っていないんですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

まだ、これからも報告する必要があると思いますので、そのときに全員協議会を開催させていただきたいと思います。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

私、9月議会です、悲壮な思いで、せめて周辺住民の安全をと思ひまして、その高床式というのを提案させていただいたんです。それで設計変更も可能なのか、予算はどれぐらい追加せなあかんのか、その辺もお聞きしたんですけども、町長にその意思がなかったようなんですけれども、念のために島本議員がそれぐらいのことを言うたのやで、一遍まあいくらぐらいかかるんか、設計変更できるかどうか、ちょっと聞いておいてやろうかと、そういう

ことはしていただけませんでしたか。

川端龍雄議長

世古学校教育課長。

世古雅則学校教育課長

議員さんさきほど言われましたように、高床式にした場合に、予算はどれぐらいになるんかということだと思えるんですけども、これ非常に概算で申し訳ないんですけども、平米当たり10万円ということで、もう約、相小の体育館につきましては、1,000㎡ほど考えております。そうしますと1億円ほど今の予算に対して増になるものではないかなというふうにして考えております。以上です。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

9月にも申しましたが、相賀小学校周辺住民1,300人、その人たちの生命と財産を守る、町の使命として1億円の追加予算はどうということないですね、その気になればね。私性分的にこの件に関してしつこく言うつもりはありませんので、どういうつもりで、どういう気持ちでですね、これを力を入れているか。最近ですね、これ地方紙なんですけれども、この水害のあった4年前に、相賀小学校に在職してました学校の先生の体験記というのがありますので、町長ももちろんご覧いただいておりますので、ちょっと私の気持ちというのですか、これへ丸々含まれておると思いますので、ちょっと読ませさせていただきます。

教室側から外を見ると、運動場は大きな池のようになっていた。相賀コミュニティセンターのほうにお年寄りや病人の方、子どもたちが避難していた。だが、段々水位が上がってきて、そこも床上浸水状態になり、2回目の避難になったそうだ。学校の2棟に避難しようとしたが、この学校の2棟というのは、今度耐震補強して改装していただける別館ですね。ここへ避難しようとしたが、コミュニティセンターとプールの間が低くなっていて、水が深くてここを渡るのが大変だったとのこと、皆協力してロープを張ったりして頑張ったとのことだった。

結果、ほうほうの体でずぶ濡れになって、この別館へたどり着いたんですけども、この別館へ入るのに鍵がかかってまして、これをまた当時の校長先生がですね、その体育館への通路の屋根があるんですね、この屋根を渡って鍵もって、それで別館のガラスを割って、そのドアを開けてくれて避難された人が入ったということです。もう100人以上おったんでは

ないかなと思うんです。

それでこのときにですね、私の同級生の主婦がおりまして、かわいいお孫さんとこのコミュニティセンターへ避難したんですけれども、結局、その相賀小学校が床上2m浸かっておるんですから、このコミュニティセンターから別館までの間というのは2m50cm以上水があったんでしょね。、これをロープを渡して男の人が手伝ってですね、この主婦とお孫さんがですね、この別館へ渡るのに、この主婦がいわく、私は孫と今生の別れかと思ったって、そういうことを言ってました。今思ったらですね、えらい大げさな話やと思うんですけれども、当事者はやっぱり必死やったと思うんですね。

船津、相賀、民間1,600世帯、私もその被災者です。この人たちにですね、ほんまにいつ起きるかわからないこのまた大水害をですね、安全に安心して避難してもらおうと思ったら、今のこの改築の相賀小学校でええんかどうか、そこのとこよくお考えいただきたいと思うんです。

それで偶然でしょうけれども、町長もこの水害は経験してないし、教育長もしてませんね。教育課長もしてない。その辺のところもうひとつですね、やっぱり体験してないだけに、もうひとつ思いが薄いんじゃないかなと思うんですけれども、唯一、三役の中で、川端収入役がこの水害を経験されておると思うんです。当時、海山町時代ですから、収入役は当時防災課長かな、今でいう危機管理課長の立場やったと思うんです。3日、4日、川端収入役ご飯もろくに食べんと、ろくに寝ずに、この復旧というのですか、その活動をしていただいたと思うんです。大変ご苦労されたと思うんです。その方にひとつですね、今度の相賀小学校、9億円かけた相賀小学校の改築、これでいいのか、ちょっとお聞きしたいと思います。お願いします。

川端龍雄議長

小倉教育長。

小倉肇教育長

ちょっと発言いいですか。ただいまの水害の経験という問題ですが、私は当時教育会館にあります紀北教育研究所の所長をしておりました。ですから、災害の当事者でございます。あそこも2m近い水害がありまして、復旧にですね、1週間以上かかりました。その間、ずっと出ずっぱりで、埃でですね、晴天が続いたので、声が出なくなった。そういう経験をしております。

それから当日もですね、長島のほうもこの赤羽地区がすごい冠水状態ございまして、こ

こへも現場へもですね、車で行って、そして帰れなくなって迂回して帰るといふ、そういう経験をしておりますので、この相賀小の問題についてはですね、十分そのことは考えて学校側と打ち合わせをしたつもりでございます。

そしてまた、学校側の意見、地域の人々の意見も十分聞いたうえでですね、議員がおっしゃることごもっともだと思いますので、これは2階に収容するというので、2階を避難場所としてですね、前の水害に耐え得る高さでございますので、十分ですね、この教訓を生かしてやっていけるということでございますので、また学校長のほうもですね、学校の水害を体験した職員もたくさんおりますし、論議の中で、この体育館の嵩上げについては、学校側も否定的でございました。この日常の学校業務に差し障るということですね、ただし、2階の避難場所としての機能は十分考えてほしいということをお願いしてきまして、それも踏まえてやらせていただいております。

なお、設計がまたでき上がりましたら、必ず全員協議会にかけてですね、また皆さん方のご意見も聞きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

教育長が経験されているとは知りませんでしたので、失礼しました。そういうことですね、新しく建てるので何とか周辺住民も安心して避難できるような場所にしていただきたいと思っております。相賀小学校が安心して避難できる避難場所にならないということになると、また周辺住民からですね、別に防災センターとか避難所、安全な避難所をつくってくれというようなね、重複した要望が出てくるような雰囲気もありますので、このさきほど教育長申しました体育館ですね、2階部分をつくるというてましたですけども、これは何名ぐらい収容できそうですか。

川端龍雄議長

世古学校教育課長。

世古雅則学校教育課長

2階部分に防災倉庫と、また避難者の方を確保するスペースを確保するわけなんですけれども、これにつきましては約ですね、100名ほど収容できると思っております。その面積的には6mの13ということで、約80㎡ぐらいです。

それと同時にですね、トイレのほうにつきましても、また1階、2階ということで、トイ

しも設置するようにはしております。以上でございます。

川端龍雄議長

島本昌幸君。

13番 島本昌幸議員

今後も、また全員協議会も持っていただけるといふことで、関係者も努力していただいて、9月よりは少しは進歩したと、そのように努力されたお陰とっております。

以上でございます。終わります。

川端龍雄議長

これで島本昌幸君の質問を終わります。

川端龍雄議長

ここで暫時休憩いたします。11時から開会いたします。

(午前 10時 45分)

川端龍雄議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

(午前 11時 00分)

川端龍雄議長

次に、15番 中津畑正量君の発言を許します。

15番 中津畑正量議員

15番 中津畑、議長の許可を得まして一般質問をさせていただきます。

1つには、議員管外視察、四国地方へこの前、行ってまいりました。その視察の内容は、課長からの復命書等で町長もよく中身はわかっておられると思うんですが、私の感想も述べ

ながら、町長のまちづくりに対するこの視察に対応してですね、真似をするということではなくて、良いところは取り入れるという意味で、町長の考え方をお聞きするわけです。

土佐清水市、四万十市、徳島県の三好市の視察を行ったところでございますが、先の9月議会でも燃油の高騰により、1次産業経営に対する直接支援の質問をしたところであります。私は大きな関心を持ってこの視察に参加したところでございます。

土佐清水市の説明では、燃油高にあえぐ漁業、農業のため、1ℓ当たり3円の直接支援は、ローカルテレビ等でも報道され、漁協も大変喜んだという報告がありました。漁民から見ると3円の補助で助かるというものではないけれど、漁業者にとっては本当にもう一度頑張ってみようと、そういう声も出ているということが、当市のほうから報告がされております。市当局の素早い対応は市民と行政の信頼の絆がより太くなり、これ以上の財産はないと私、強く感じました。

お金や物だけではなくて、お金や物も大事ですが、それ以上のお互いの行政と市民との絆というものは、これからのまちづくりに本当に一番大切なものではないかと感じたわけです。四万十市では自然を守り、子どもたちに伝えていく、そういう強い思いが、また三好市では不況にあえぐ山林経営を隣接の市町の協力を得ながら、懸命なまちづくりをしている様子がよくわかりました。町長の考えをお聞きするところでございます。

2つ目には、今、国のほうでは随分新聞、マスコミ等通じまして、定額給付金と消費税増税について、町長にお聞きするところでございます。今、マスコミはいろんな問題点をえぐり出してありますけれど、この定額給付金2兆円というものを麻生内閣が一律支給といっても、右腕、左腕の閣僚からは所得制限を付けるべきだとか、また生活の余力がある人は辞退という、辞退するべきという意見が出されて、最後には所得制限を設けるかどうか、自治体に任せるといった判断が出されたところであります。

こここのところが、一番市町にとっても大きな問題だということが、今、ちまたでも出されているところでございます。しかも3年後に消費税、増税をすると、今なおかつ、麻生内閣公言をしているところでございます。有効な景気対策どころか、給付金は一時、消費税は死ぬまで、この消費税を払っていく、そういう中身としてはまともな政策ではないのは、各種の世論調査、特にNHKや共同通信の調査を見ても明らかであります。次の点について、具体的にお聞きします。

1. 定額給付金をどう思うか。
2. 所得制限を設けられるのか。

3. 事務負担をどうするのか。

4. 消費税増税をどうみるか。

以上の点について、町長の考えをお聞きいたします。詳細については自席においてお伺いをいたします。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

中津畑議員の質問にお答えいたします。

燃油費の高騰に関しましては、歴史的な高騰で値上がりが続き、漁船のストライキといった事態も発生いたしました。

最近になり、ようやく原油価格の下落により急激にガソリン価格が下がり始めておりますが、景気の方はいまだに良くなっておらず、まだまだ皆様の生活に大きな影響を与えております。議員には先の議会でも申し上げましたが、特に燃油費が経費に占める割合が高い漁業につきましましては、その影響が非常に大きいものと認識しております。

また、その影響により、今年例年より早く操業を取りやめた漁船が多くあることもお聞きしておりますし、議員が視察なさった土佐清水市では、燃油費高騰の対策として直接的に助成しているようですが、紀北町内の一部の水産業者では国の支援策を活用し、燃油費の高騰を乗り越えようと努力していることも聞いております。

議員が言われるように、直接的な燃油助成が漁業者に頑張ってみようという気持ちにさせたことは、行政にとって大事なことであります。これもひとつの町づくりということですが、本町といたしましては、水産振興の基礎となる漁業生産基盤としての漁港、漁場の整備、さらには藻場造成事業による漁獲高を上げるための施策など、地域を支える重要な産業として支援しているところであります。

次に、定額給付金と消費税増税についてでございますが、まず定額給付金につきましては、テレビ等で報道されておりますとおり、国の追加経済対策の柱として打ち出され、去る11月28日に総務省から原案が示されたところでございます。総務省の原案によりますと、定額給付金は、世帯構成員1人につき1万2,000円、18歳以下及び65歳以上の方につきましては、2万円が給付されるものでございまして、所得を基準とする給付の差異を設けないことを基本とするとされております。希望する市町村は、1,800万円を下限とする基準額を設けて、基準額以上の所得がある世帯構成者がいる場合、給付の制限を行うことができるとされてお

りますが、去る11月25日の全国町村会理事会におきまして、すべての町村が所得制限を設けない方向で統一した取り扱いとすることが望ましい旨の申し合わせがなされました。所得制限を設けますと、各世帯員の所得の確認等で事務が煩雑になり、事務に多大な負担が生じることが見込まれますので、本町におきましても、全国町村会の意向に沿って、給付にかかる所得制限は行わない方針でまいりたいと考えております。

ある新聞社が行った世論調査では、定額給付金を「評価しない」との回答が70%に上っている一方で、給付金が支給されれば「受け取る」と回答した方が80%以上いることから、国会で定額給付金の給付が認められた際には、速やかに町民の皆様へ支給の手続きをお知らせしたいと考えております。ただ、給付金の給付は年度末から年度初めにかけて行われる予定でありまして、事務事業の非常に繁忙な時期にこのような業務が増えることは、その間ですね、町民の皆様にご迷惑をおかけすることにもなります。事務の担当部署につきましては、現在のところ決定はしておりませんが、今後の国の動向を見極めながら、町民の皆様へ速やかに給付ができるよう体制を整えてまいりたいと考えております。

なお、給付金の給付にかかる費用につきましては、原案によりますと、給付金の総額と、給付にかかる事務費につきましては100%国から手当てされることになっております。

次に、消費税増税についてですが、当初は3年後を目処に増税したいというような首相の発言でございましたが、最近の報道等によりますと、3年後という明示につきましては、いろいろな考え方もあるように思われます。ますます景気の冷え込みが予想される中で、町民の皆様への生活に与える影響が少ない方策を検討していただきたいと感じておりますが、引き続き今後の国の動向を注視してまいりたいと考えております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

それでは、ちょっと具体的にお聞きします。

まず、管外視察のほうなんです、各議員、課長ともこの報告書が出ておると思います。是非一読していただいて、同じ説明を受けて同じ町ですから、当然内容的には同じだと思いますが、それに対するいろいろ議員の受け止め方、考え方が違うと思いますので、是非一読をしていただきたい。

私は特にですね、前日も言われましたが、宗田鯉が大量に捕れるところから、第三セクターの民活を入れてですね、キャットフードをして社員125名、こういう量産体制に入って軌

道に乗っている土佐清水、私はこの言うたら配当から、この103円の補助金を限度を付けてですね、本当に満足のいく金額ではないけれど、漁業者、また農業者に出したということでもあります。それが本当に良い悪いではなくてね、町長、速やかにその原油の高騰で困り出したときに、即そういう手当を少しでもしていくという姿勢がですね、今後のまちづくりに役に立つというのは熊野古道を見てもそうです。いろいろな物販販売を見てもそうです。皆さんがこの町もほとんどボランティアで事業に携わっていただいておりますね。

そういうお互いの信頼があってこそ、そういうことが成し得る、熊野古道ひとつ守るにしても、この民間のその住民の人の協力がなかったら、なかなか守りきれないだろう。行政だけでは守りきれないだろうと思うだけに、こういう普段からの困ったときには何とか少しでもというような格好で、住民にわかる格好で対応をしていく、そのことは本当に素晴らしいことだなと思ったひとつの感想です。

それと、防災関係についてはですね、僕は土佐清水より当町のほうがもう少し進んでいるかなという感じを持ちました。というのも、土佐清水では先の地震では、そんなにたくさんの被害ではなかったわけです。ところが今度の予想される南海、東南海地震についてはですね、相当大きな地震が予想される。ですから、清水市ではスマトラ地震の地震の映像を見せてですね、津波の状況を映像で見ていただいて、すぐ逃げることを徹底している。そこがやっぱり基本なんだと、そういうオーソドックスと言いますか、もう本当に防災の基本中の基本なんだろうが、すぐ逃げるという状態を市民の感覚として持っていただくような訓練をしている、そこがやっぱり派手ではないですけど、大事な部分だと感じたところです。

それと四万十川についてはですね、これはNHKの最後の清流、日本最後の清流と銘打って放送された。それによって入り込み客といいますか、四万十川を見ようという方がどんどん押しかけてくれた。それによりまして住民の意識、流域住民の意識も変わって、皆が協力をしながらやっている。

市としても当然環境への配慮のために、公共河川の工事は自然工法が当たり前だと、しかも流域には産廃施設や畜産排泄物の流入、汚水処理場がないという、そういうことがこの自然を守っていくうえでは、とても大事なことであるということ報告をされておりました。

三好市についてはですね、我が町とそんなに変わりのない、林業も大事な基幹産業であります。そこで第三セクターで運営している材木加工業、加工工場、これは3年続きの赤字だということを報告されておりました。しかも、伐期がきて伐採してもですね、植林ができない、すぐはげ山が多くなってしまふんだという報告もされておりました。県の補助金も極端に少

なくなっているんだ。しかし、そういう中でもですね、基幹産業を守っていくという前向きな姿勢が本当に説明からは、本当に深刻な問題ではありますけれど、経営危機は。だけど隣の徳島市や県のほうにも要請を入れながらですね、林業を守り育てていく、その精神が何もふれずにですね、追求されている状況が本当に過酷な状況であっても、この三好市の林業を守るという観点というのは、大変素晴らしい姿勢なんだと、私は思いました。しかし、財政的にはこれから大変だろうなという思いも一面では大きくしたわけでございます。

町長、この考え方についてですね、私は財産というのは物やお金だけではないというのは、そういう意味で今後この紀北町の町民がですね、苦境に立ったときにはすぐ行政が動くというような、そういう行動が一番大切ではないのかなとは思ったわけですが、町長の考えを、その1点だけ聞いておきます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員のご指摘、ご質問は、行政はできる範囲内ですね、災害、あるいは社会的な急激な変動に対して対応するのが使命だと思っております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

それでは、定額給付金のほうに入りたいと思います。

町長言われたとおりですね、この支給額は町長おっしゃられたとおりなんですね。これはもう国民誰もが認識したところだと思うんです。ただ最近、この12月8日のNHKの世論調査でもですね、80%の人が評価しない。お金を2万円、1万2,000円から2万円、国から支給されるのに、評価しないというのが80%の人がおるんです。大いに評価するという人は1%なんです。このようなことがNHKの報道でもなされておりました。このことはですね、この給付金そのものの性格と言いますか、町長はどのように認識されているのか。

例えば、生活支援のための給付金なのか、景気対策の支援金なのか、町長の考えをお聞きします。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

この定額給付金の目的は、景気後退下での住民の不安に対処するため、住民への生活支援を行うとともに、あわせて住民に広く給付することにより、地域の経済対策に資することを目的とするという趣旨があります。この趣旨には私は是認いたします。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

町長のお考えはよくわかりました。この今の報道の中でですね、秋田県知事なんかも経済的效果が出ないということが、知事の所信表明というか、その県議会の説明の中ではっきりともの申しておるわけです。そのほかにもいろいろ所得制限をすることについて、山口市は制限をするんだとか、所得制限をしないんだという新潟市、無責任で市町村に丸投げしてくるのは迷惑だと、福島市を中心にして15市がはっきり言っております。

ただ、町村会の中でですね、決めたらそういう格好でいけるのかどうか、この問題は支給がね、所得制限があるとことないことは、起こったら拙いわけですね。隣の町が制限されておる。ここがしてないということでは、当然不公平になりますから、そこら辺の考え方はもう言うたら市町村の中での高所得制限を設けないということで、対応するという事なんでしょうか、当町は。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

さきほども申し上げたとおり、全国町村会の趣旨に則って、それに準じてまいりたいと思っております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

ということは、所得制限を設けないということは、景気対策の性格が強くなるわけですね、そういうことですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

これは景気も経済効果も考えたうえでの事業であると思っております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

はい、景気対策であれば誰が使っても同じであると、全部国民に等しく支給するという中身になりますね。それは高額所得者も何もないというのですが、助かるんだということになるんですが、私は考え方としてはですね、この2兆円もの財源、これは財政投融资、郵便貯金を財政投融资で使いますが、その余剰金を使った、いわゆる埋蔵金と言われるものを使うようですが、実際にはですね、このお金の使い方はね、私は政府が行ってきた02年からいろいろ削ってきた社会補償費1兆6,200億円、この中身というのは高齢者医療制度の廃止や、子どもの医療費の無料化や、年金、生活保護、児童扶養手当の引き上げ等、十分行える金額なんですね。そういうところにむしろ使ったほうが、社会的弱者に使ったほうが、より有効な生活支援にもなるし、景気対策にもなるという考え方を持っているんですが、町長の考え方がいかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

これは国で、内閣総理はじめ、総務省が協議の結果決めたことでありまして、ちょっとそれに対するコメントは今は差し控えたいと思います。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

はい、おっしゃるとおり総理が内閣の中で決めたこと、しかし、国会の中では議決されておられませんね、今のところまだね。そういう第2次補正がまだ全然提案されていないので、具体的には何ら決まってないんですが、一応、地方に丸投げという格好、丸投げという言葉は悪かったら、バラマキという格好になるんですが、バラマキというのは悪いかな。

どちらにしても同じなんですが、そういうふうにして、地方の自治体にですね、この給付金を判断してくれというのはね、あまりにも無責任だとは思いませんか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

それは無責任というよりも、地方自治体等を信頼していると受け止めることができます。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

それでは、ちょっと変わった方向で町長の考えお聞きします。

この給付金とともにですね、この事務費が当然要るわけですが、町長は答弁の中で 100%と言いましたね。だけどそれもまだわからないのは確かですが、一応 100%やりたいということですが、具体的には何ら町民のサービスに影響が及ばないということが断言できるんですか。お金ではそれは事務費としてはこっだけ要りましたということなんです、実際の事務の作業は職員が異動したり、臨時職を雇ったりせんらんわけですから、そこら辺では全然心配はないですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

さきほども申しあげましたけども、給付金の給付はですね、年度末から年度初めにかけて行われる予定であるということですから、町民の皆様にはですね、ご迷惑をかける場合もあるかも知れない、ということでございますので、ご理解いただきたいと思えます。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

自治体としては、当然年末年始にかかわってくるということですが、これはこの20年度内に支給が国会を通過するかどうか、予算が通過するかどうか分からない状況の中でありまして、基本的な考えとしては所得制限をすとか、自治体にそれらを任すとか、しかし、所得制限をしないのであれば、ほかのわずらわしい、言うたら誰が 1,800万円以上所得があるかどうかという判定もしなくて済むし、もし、そんなことになったら大変なことだと、個人情報流出にもつながるといふ、税法上はそういうことで、税の原本といいますが、税の徴収が誰がどんだけというのを、そんなほかのことには使えないとなっていますから、当然、そんなことはできないはずですから、これは私は当初からできないと思っておりました。町長も市町村会の意向でそういうふうにしていくということですが、ちょっと前のテレビの中で、あの小泉内閣の右腕でありました竹中氏が、テレビの中で、この給付金制度、こ

れについてはですね、天下の愚策だと、はっきり言って僕もびっくりしたんですが、経済通のあの人が、これは天下の中でも本当に愚策のひとつだというふうな言い方はですね、本当に国民から見ても8割の人がこの問題については、良い施策とは思わんというような批評、10年前にちょうど出ておりました地域振興券の問題も、実際には経済効果として3%しかなかったやろというのが、結果として出て報告されておりましたけれど、その2%、3%の範疇で地域振興券をまいた。そのことの失敗、これをまた繰り返すのかというのが、国民世論の声として80%あるんじゃないだろうか。

もちろん支給されるようになったら、もらいに行く人が多いと思いますけれど、それについては効果があるとは思わないといいながら、生活が大変だからということで、皆もらいに行くわけでございます。そういう点で、この給付金制度そのものがね、本当に効果があるものだろうか、国が決めたら仕方がないんだと、県が決めたら仕方がないんだという言い方は、やっぱりはっきりものを言うていく必要があるんじゃないかと、私は思うんです。

町長の答弁を願います。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

少なくともですね、2兆円の金が全国に行き渡るわけですから、効果がないということは言えないと思いますが、それが多くあるのかなのか、その辺がやっぱりやってみた結果をですね、調査する以外ないと思っております。ですから、この事業が所期の効果が出ますように、期待をしております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

町長、私ね、この定額給付金そのものが、その結果が良いほうに出るよというところで、町長言いましたけれど、実際には京都市議会の中でも意見書が出ているんです。定額給付金の見直しを求めるといってね。ちょっと読み上げます。

意見書の中身は、定額給付金が経済危機に対する緊急対策とは到底思えない。と強調し、第2次補正予算から定額給付金を外し、緊急雇用対策などに取り組むことを強く要望しますよということの意見書なんです。しかも、こういうことで賛成多数で可決されましたけれど、全国で初めてのことなんです。この反対討論の中ではですね、バラマキなどの批判に対し、

庶民感覚が欠如しているとか、自治体の負担について泣き言は通用しない。そんな反対討論が出ているわけです。

それは考え方の違いがもう真っ向から対立しているような状態なんですが、しかし、いずれにいたしましても、京都市議会でもこういう意見書が出るというのは、まだ国会の通過を見ないうちにですね、こういう格好で出るというのは、よほど、やっぱり悪法だと、悪い政策だと私思うんですが、私自身も心同じくするところがありますのでですね、こういうような意見書というのは本当に重いもんだと、それは町民のため、市民のためを思わない首長はいないわけで、議会もそんなことを思わない議会はないわけでありまして、ただ、この言うたら世論の動向というのがですね、今、盛んにテレビなんかでも言われております。しかも、3年後に消費税があるという、その点が連結して麻生内閣、何回も明言されております。

そういう点で、消費税に対する見方、リンクしておる、リンクしておるって全くつないでいるわけではないですが、給付金を出しますよと、その代わりなんだということではないですが、3年後には消費税10%以上上げたいんだと、数値も明示されました。しかし、経済諮問会議の中では、この数値が盛り込まれませんでしたね、昨日か、その2、3日前の諮問会議で。

そういう意味では、この消費税の数値は盛られてはおりませんが、この消費税の考え方というのは、これはとても容認できるものではないと、私自身思うんですが、町長はどうお考えでしょうか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

これはね、容認できるものとか、できないとかは、考えてもですね、意見が届きませんが、政府として、それは国を運営していくうえでの政策を立てるわけなんで、そのように受け止めておまして、反対とか賛成ということは差し控えます。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

消費税というのはですね、大企業は一円も払わないわけですね。町長よくご存じのように、だから生活保護を受けている方、お年寄りの方、子どもたち、この社会的弱者と言われておる人たちが、衣食住にかかわるすべてのものに日本の国では消費税がかかりますね。ですから、

過酷なこの言うたら負担になるというのが、私景気の冷え込みもそこから始まってしまふ、給付金をいくら出してもそれは貯蓄に回ってしまう、景気対策にはならないということも、十分考えられると思うんです。そういう点で町長の考え方、消費税の考え方というのは、良い、悪いは言えないとはいうものの、全く町長個人の考え方でもいいですから、どう見ているか、是非聞かせていただきたい。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

さきほども申し上げたとおり、今後の国の動向を注視してまいりたいと思っております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

イギリスではね、ほかの国のとこまで飛ぶのはどうかとは思いますが、イギリスでは、この消費税というものに対して減税をしましたね。17.5%から15%に引き下げました。欧州連合もそういうような格好で今、世界的な不況ですから、それに対応するために下げようとしておるような動きが随分あります。

だけど、日本では全く逆なんですね。その当のイギリスでもそういう生活関連のものについては、消費税をかけていないんです。そのうえでなおかつ税率を引き下げる。15%ですから、随分日本の今の下げても3倍の率ですから、大きいんですが。そやけど衣食住に関する関係については消費税をかけてないイギリスでも、そういうふうな施策をとっている。これは消費税をかけたときには、もうひとつ日本の景気が引き下がってしまうのではないか、そこら辺をはっきり地方の首長といえども、ものを言っていく、そういう姿勢が必要ではないんだらうかと、私は思うんです。

町長何回聞いても同じ答えだらうとは思いますが、消費税に対する考え方、このことは給付金とあわせてね、同時発表の格好で麻生総理の口から出されましたので、これは地方にとっても大きな問題であるというらえ方を、是非していただきたい。そのことを町長にお聞きします。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員ご承知のとおりですね、中央で決められたことを、地方から申し上げてもらってもそれは大きなうねりにはなりませんけども、お任せしているわけなんですけど、できるだけ国民の負担が増えないようにと願っております。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

給付金のところでも申し上げましたけれど、この言うたら徳島県ですか、福島市、山形市、新潟市、それで秋田市の県の知事であってもですね、給付金、決まっていらないものですが、問題だと、全然経済効果が出やんだらうというようなね、公式見解を出されるというのはね、非常に勇気の要ることだとは思っています。しかし、それはその知事としてですか、政治に携わる者として、心配することはやっぱりきちっとものは言わなアカんと、私は思っています。

そういう点で、町長の見解を聞いているわけですが、このように市町村にとっては無責任で迷惑だと、15市の市町がこうしている。津市の幹部でも一応新聞によると、これは問題であるというような言い方もちょっとしている方もおられます。町長や市長となると、そういうことができないのかということ、やっぱりできると思います、私。

そこら辺はやっぱり、そう言うけれど、皆が決まったんだから、こうしますということと、初めからもう決まったらそのようにするんですということとは、これは違うと思うんですが、町長の見解をお願いします。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

さきほどから申し上げておるとおりですね、町レベルで、この問題にとやかく言うということは、コメントは差し控えたいけれども、中央が決めたことはほとんどこれ地方自治体の行政に決まっていますよね。どうぞその辺でご理解ください。

川端龍雄議長

中津畑正量君。

15番 中津畑正量議員

ちょっともう1つ、隣町のことで大変申し訳ないんですが、一般質問されて新聞に載っていた記事。これは隣の責任ある立場の市長のほうからも、この定額給付金は良い制度だと、しかも商品に回していただくのが本筋だけど、貯蓄に回る人が多いだろうから心配している

と、それは当然の話だと私も思います。

給付金を出したわや、何にも消費にもつながらん。先が病気になったらどうしようということで、貯金に回ってしまう。それがですね、私さきほど申しましたように、国の財源は国の埋蔵金と言われる部分を使うんですから、それを使ってしまったときには、当然、国債発行につながっていくんですね。そうなるこれは子どもたちにもどんどんそのしわ寄せを、今 900兆円を超えているような話も聞きますけれど、そういう格好でやっぱり物事を考えていかないと、日本の国は今だけ生きていいんだではいけないという考え方は、私は地方議会の議員であろうと、町であろうと、職員であろうと、国民であろうと、そういうところはやっぱり見ていった結果が、世論調査でお金をやる、もらえるという人が、あまりそのええよ、ええよという、ええなあ、それはってというような格好でとらえていないのは、そこにあるんだと私は思うんです、究極はね。

そういう点で、今回の質問になったわけですが、もう町長も何回、角度を変えてもそういうことでは、景気対策にはつながるか、つながらんかわからないけれど、つなげるようにしていきたいんだということでございますけれど、あまり中央政府、今の政府のやり方、これについては国民がかなり見通しているな、見通した中で、この給付金についてもただもらう、2万円もらう、1万2,000円もらう、これがいいことだけ、その場限りのもんだと、あとの消費税のほうが怖いという方も、たくさんおられます。

本当に2万円どころではなくなる、その消費税を上げられるということで、これ以上苦しくなったらかなわんということがあるんだと、それは国会論戦ではないんですから、いろんな無駄を省いてほしいとか、思いやり予算をしてほしいとか、大企業に対する適正な減税でなくて増税をしてほしいとか、財源をつくるべきだとかいろいろありますけれど、考え方は。そやけど今回の件についてはね、この給付金の支給というのは、本当に何のための、僕は自分の考えはありますけれど、何のためにこの給付金を出すんだということは、景気対策でもない、生活支援の一部にはなるでしょうが、あとの消費税のほうが何十倍も何百倍も死ぬまで続く、払わなければならない消費税というものが、引っついていていただけにですね、国民の方はそれを見越して80%の人が問題ありという格好で、NHKの調査でも出ているんだな、そのように認識しておりますが、町長、そこら辺で、もう町長の考えは要りませんが、今後の考え方としてね、悪いもんは悪いと、はっきりちょっと私個人の考えですがということでも結構ですけど、良いものは良いと言うていただけりゃいいんですが、そういう点で見解を是非述べていただきたいなということを要望いたしまして、私の質問終わります。

川端龍雄議長

以上で、中津畑正量君の質問を終わります。

川端龍雄議長

ここで暫時休憩します。午後1時から開会いたします。

(午前 11時 40分)

川端龍雄議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

(午後 0時 59分)

川端龍雄議長

次に、19番 奥村武生君の発言を許します。

19番 奥村武生議員

19番 奥村でございます。議長の許可を得ましたので、質問に入らせていただきます。

1番、町長の資質を質す。住民は額に汗して働いている中から、高い税金を払っています。それはひとえに生活権を守ってもらわんがためであるということは、紛れもない事実でございます。あなたは、住民から負託を受けた立場にある紀北町の最高責任者として、一番大切なことは何だとお考えでしょうか。

私は別の角度からの住民の負託を受けた議員として申し上げれば、住民の命と健康、そして財産を守り、東紀州独特の海の幸を生み出した山、川の環境を、資源の保全を図り、かつ環境を守ることによって、私たちの生活の糧となってきた漁業資源の保全だと考えますが、いかがでしょうか。

そして、その環境の部分です、あわせて質問をさせていただければ、廃掃法の意味、

そして水源保護条例などの立法の精神をお答えいただければと思います。

2、今、何をしなければならぬとお考えでしょうか。私は同じく議員としての立場から言えば、東南海地震対策による津波対策であり、学校耐震であると考えます。そして当町の基幹産業である漁業対策であるし、そしてアメリカの金融派生商品をもとにして世界恐慌に突っ込んだ中であって、さらに日本の最大な悪法と言われる金融、社員派遣ですか、あれによって最大の日本は危機に陥っているということは紛れもない事実ですけども、とその4点だと私は思うわけであります。

その4点目のことについて、あわせて質問をさせていただきますけども、当町で1億円を上限とした信用保証をリンクした申し入れは何件ありましたか。あるいは派遣等で職の失った人、住居を失った人の、どのように申し入れがあるでしょうか、あるいは対策があるでしょうか。

2、財政出動のあり方を質す。費用対効果の小さい事業を見直し、住民の命と健康、そして財産を守る施策を行うべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。具体的にはこの問題については自席で質問をさせていただきます。

大きな2、町長の財政出動のあり方を質す。住民の負託を受けた議員として、数ヵ月前にも文書で治山事業とか道路の改善を求めるとしてあるところでもありますので、回答はいただいておりますけども、多くの部分で重複する部分がありますし、その実情について担当課の責任者にも説明をしておりますので、改めてもうすでに検討されていると思いますので、先回その数項目の要望事項を出ささせていただきましたけども、これについての回答をできればお願いしたいと思います。

それから3、大白浜公園を含む大白浜公園の管理についてですけれども、多分、時間切れになる予想がしますので、先に内容に踏み込んでまいります。大白浜公園は一般的な見方からすればですね、大白浜公園の植栽は植物は泣いていると言っても過言ではございません。

例えばですね、桜の木のうえに木が被さっていて、手入れがされていないとか、あるいはせっかく育ってきたのが、もう傾いて手の施しようがないとか、あるいは小さいときの枝打ちをしてないとか、あるいは柵を外してないとか、あるいはその桜の木がテングス病にかかっているにもかかわらず放置をしているとか、あるいはそういうさまざまな問題があります。

このような管理について、なぜこのような住民の皆さんが嘆き悲しむような管理を大白浜公園で行ってきたのか、以上についてお聞きしたいと思います。

あとは自席で行います。

川端龍雄議長

奥村議員にちょっとお尋ねします。

さきほどすでに要望した件の回答をお願いしますと、答弁をお願いしますと言っていましたけど、受け取り方はそれでよろしいですか。

やはりその要望した要件をね、ここの登壇所、そこで言っていたかんと、何を要望したか、こちらのほうはわかりませので、お願いします。

19番 奥村武生議員

不手際があって申し訳ございません。引本浦 890から 891、及び引本浦 885から 891にかけて、消火栓が設置されておられません。特定施設も2つあるというふうに考えますので、瞬時の場合の消火が必要となります。また、クリーンクリーンデーのおり、消火栓がないため水を流せないなので早期に設置をお願いしたい。

2. 引本浦長浜のお庚申さん下の横断溝が狭くて、水捌けが悪く、いつも泥が詰まります。早期に改善をお願いしたい。

3. 引本長浜の中央を流れる川の県道付近が急に狭くなっており、かつて車が転落をし、肩の骨を折りました。これは13年前です。川側にせり出した部分をつくり、ポール状のガードレールをつくる等危険防止策をとられたい。

4. 引本浦お庚申さんの場所に、鉄筋と木材の小規模な避難場所をつくられたい。理由については、長浜の方は引本の方と違ってですね、避難命令なんかが出ると、すぐお庚申さんところに逃げます。ところがかつて雨が降っていてですね、大変困ったということを知っています。

引本浦 402番地横の町道と側溝が閉塞状となっています。秋雨前線並みの雨と大潮が重なるとき水たまりとなり、近隣の側溝を整備していただきたい。これはもう十数年来の課題でございます。

引本浦 404番地の横の側溝を山からの水が流れますが、その受け皿のマスが小さくて、水が溢れます。これももう10年来の念願でございます。

それから、引本浦 256から約 100mの間においてですね、ここが学校の通学路になっており、あるいは野口病院へ行くお年寄りの方が通る主な道路になっておるんですけども、道路が蒲鉾型になっていて、極めて危険極まりない状態にあって、私らも見てですね、もう気の毒でお年寄りがその車を、乳母車みたいなのを引いて来るのを、もう見ておれないようなか

わいような状況にあるわけです。特にこれは必要だというふうに判断をしております。

それから、引本 876から6、引本海産組合の間の側溝が大潮と重なると雨があふれ、これも十何年来の難儀をしている部分で、早期に改善をお願いしたい。

引本浦 515番地の上方にももう一段防柵が必要であるので設置をお願いしたい。これについてはですね、落石が急傾斜の面に当たったときの場所によって、下の柵で支えきれないということが紛れもない事実ですので、そのことが町のほうでは、おわかりになっていないというふうに判断をしております。

引本浦 581の上方の山の間知石と山の間が崩れています。そのためのもうごろ石が高いところにごろごろ転がっていて、下の人がですね、相当高いところへ登ってとらないかんということで、難儀をしております。

それから、引本の誰もが言っているわけですが、登り口、これは緊急避難道となっておりながらですね、向かって左側の土砂留めがもうほとんどやっておられませんし、照明すらない。夜中にここを緊急避難道であるので、それなりの対応は当然されるべきだと、優先してされるべきだというふうに私は思います。

それからクリーンクリーンデーのうちに、その側溝の蓋が掃除をしようと思っても重くてですね、怪我人も出ていると聞いております。その付近の人の了解をとり次第ですね、随時網の目の側溝に変えてですね、それで双方から何か突っ込めばとれるようなことをされるのが、よろしいかと思えます。そうすれば町の清掃が一段とこう強化されるというふうに考えます。

それから引本公園の山際、いわゆる奥山さんの方からの上の山の木ですが、これこそ30年来の要求事項であります。これは前の私の父親が議員をしていたとき、その当時の町長さんと一緒にお見えになって点検もしているけども、いまだにこれは改善をされておられません。

それから岸米穀店の前の側溝の新設がわずか60万円、試算するところによると60万円できると思いますが、これも放置されたままにあります。

そのあとのことに、2の部分もありますけども、これは県に要望することですので、これは割愛させていただきます。以上でございます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

奥村議員のご質問にお答えいたします。

平成11年から合併までの約6年間、紀伊長島町長として務めさせていただき、3年前、合併後の紀北町の初代町長に就任した際、あらためて、町民の生命と財産を守るという重大な責任を再認識し、不退転の決意で努めてまいりました。

しかしながら、これまで何度も申し上げてまいりましたが、議員もご存知のとおり、合併直後の紀北町の財政は県下でも最下位に匹敵するほど大変厳しいものがあり、なかなか町民の皆様にご満足いただけるような町政を行うことは大変、困難な状況でありました。

このような状況の下、旧両町の融和と協調性の醸成を図りながら、まず、財政状況を早急に立て直すことが重要であると考え、議員や町民の皆様のご理解をいただきながら行財政改革の推進を最優先にさまざまな課題に取り組んでまいりました。

お陰をもちまして、さまざまな財政数値、基金残高、町の借金である公債費残高は、合併当時に比べかなり良くなってきたものの、地域社会を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されますので、引き続き行財政改革の推進を継続しなければならないものと考えており、それと並行して山積するさまざまな課題に誠心誠意、取り組んでいくのが私の使命であると認識しております。

例えば、防災面でも、東南海地震等に備えるための対策、とりわけ教育施設の耐震補強は緊急に要するものと考えておりますし、現在、着工されております近畿自動車道紀勢線は、紀北町が将来、大きく発展するための布石であり、産業振興にどうつなげていくか、どう盛り上げていくかが重要と考えております。また、現在、係争中の損害賠償請求事件、合併協定項目の1つであります本庁舎移転等、ほかにもさまざまな課題がありますが、さきほど申し上げました旧両町の融和と協調性の醸成のためにも適切に対応し、住民の方々が安心して住める町、住んでよかったと思っただけの町にしてまいりたいと考えております。

さきほど議員のご指摘ありました雇用対策については、県が現在取り組んでおりますので、その動向を見守ってまいりたいと考えております。

次に、先般議員が私宛にですね、要望されました地域の改善の要望につきましては、今後よく現地調査等をいたしまして、対応を考えてまいりたいと考えております。

次に、大白公園の管理についてのご質問にお答えします。

熊野灘臨海公園の大白園地につきましては、平成16年4月から現在まで、旧海山町と紀北町が、受託者及び指定管理者として、管理運営を行ってきました。

指定管理者の応募時には、公園利用者のサービス向上策、利用者の増加に向けた取り組み、

また、地元団体等の連携、公園利用の促進に向けた独自の提案を行いました。このことから、現在、NPO法人、地元自治会、シルバー人材センター等の活用により、地域の雇用と効率的な管理運営に努めているところでございます。

具体的には、広場の芝刈り、除草、低木の剪定、園内の巡視、清掃等の業務等を行っていただいています。特に芝生の管理については、夏場には、暑さ対策のこまめな水やりと、急激に生育するため、頻繁に芝刈り作業が必要で、大変な作業となっておりますが、お陰さまで公園利用者からは高い評価を頂いています。

このように、地域の連携とコスト縮減を図り、公園利用者へのサービス向上と安全確保に努めています。以上です。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

答弁漏れだと思うんですけども、さきほどの今、何が必要であるでしょうかという中でですね、私は4項目を提起し、町長の答えいただいたのは学校耐震と雇用対策だと思うんですけども、ほかの東南海地震による津波対策、それから当町の基幹産業である漁業対策についてはお答えいただけていないと。

それから、もう1つはですね、大白浜公園の管理体制を言ったわけじゃなしにですね、元気の会の皆さんにやっていただいていることじゃなしにですね、あの人らがやっていることじゃなしに、今植わっている桜の木の手入れとかですね、あるいは百日紅（さるすべり）の木ですか、あるいはその桜のその保護の柵とか、もう壊れているところがあるとかさね、十分なそのせっかく植えた木の管理のフォローがされていないじゃないですかということ、私は申し上げたんです。それに対する回答がないです。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

第1回目の演壇での答弁の中で、例えば防災面では、東南海地震等に備えるための対策ということで、お答えをいたしております。

それから、樹木の管理等については、多少ご指摘もいただいているところではございますけれども、地域の皆様のご理解ご協力によりまして、指定管理者としての責務を果していると認識をしております。

漁業対策につきましては、今後、漁業の持続性を考えるうえです、漁業者が長く操業できるような対策を考えておるわけであります。以上です。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

今、私は申し上げた中で、あわせて廃掃法の意味、条例等の立法の精神をわかっていないのではないかと思います、いかがですかということをお聞きしているんです。質問してま
す。廃掃法と各条例の精神です。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

廃掃法は、環境保全のうえで大変重要な法律、そのように受け止めまして、住民の生活が
保全されますように、これに従ってですね、対策を講じてまいりたいと、行政を実施してま
いりたいと考えます。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

廃掃法に関しましては、町長の認識が私は甘いと思います。これは文面を読むところから
法的解釈をすればですね、地域の住民の皆さんの生活と命と健康を守るために、産業廃棄物
等規制をしですね、することによって、規制を加えることによって、守っているんだという、
その法の精神の一面もあるということ、これお考えいただかないと、今後、出てくるであ
ろうという条例等についても、あなたは重大な過ちを侵すんじゃないかと思いますが、いか
がですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

廃掃法は、おっしゃるとおり産業廃棄物、一般廃棄物についてもですね、適切に対応して
いくというのが、行政の姿勢でありまして、その廃掃法に従って行政を行っていくというの
が、基本姿勢であります。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

私はそういうことを聞いているんじゃないんですよ。廃棄物のその廃掃法そのものではなく、廃棄物等の規制、抑制をすることによって、住民の生活と健康を守っていくんだということを、はっきりと申し上げている一面もあるということを、私は言いたいんですよ。違うんですかということなんです。守れということではないんですよ、これは私が言ったのは。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

さきほども言いましたように、そのとおりでございます。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

そして、あわせてちょっと補完しておきますけども、その廃掃法は多くのいい面もありながら、また弱点も持っております。それを補完するのが水源保護条例等の条例であるということをおし上げておきます。

次に、財政出動ですけども、あなたは紀北町の財政は非常に厳しいとおっしゃったけども、多くの無駄があるんじゃないですか。例えば緊急性を要しない問題もありますよね。あなたはその3月の議会でお認めいただいたというふうにおっしゃっているけれども、状況が変わりましたよ。今回のその9月、先般の9月18日ですか、16日ですか、あの大雨と平成16年の大雨との比較をおっしゃってください。雨量の比較で結構です。

川端龍雄議長

中原危機管理課長。

中原幹夫危機管理課長

9月18日の雨につきましては、少しお待ちください。失礼しました。2004年のですね、16年の9月の29日の雨量を説明いたします。中里でですね、最大雨量ピークなんですけども、時間雨量で154、トータルで815mmでございます。

それから、今回の9月18日の大雨なんですけども、ピーク時は私ちょっと覚えてないんですけども、中里の栗谷というところがあるんですけども、そこで910mmほど降っておるということを確認しております。以上です。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

念願の問題であった河口を掘ることによってですね、平成16年の秋の災害による災害というのは、ほぼもう相当の点でクリアできたのではないかと考えております。16年の9月にはですね、床上は1,531、20年の9月には床上は1軒と床下が5軒なんです。したがって、私の持論、前から申し上げておりますけれども、小山山側線とかね、茂原前山線についてはですね、緊急性を要するとは考えられないのですよね、当然、見直しはしかるべきだと思いますし、小山山側線については、当時の状況からいって、私は現在側溝で十分だと思うんです。

それで、私の持論であるその魚飛びのほうへ水を流せと言った場合にですね、当然、これは将来問題になる部分がございますので、暴れ川ですから。このときは水平道へ行く道から大規模なですね、小山へ入る道をつくれれば、私はいいと思ってます。そういうふうには見直しをすべきだと思うんですよ。その財政が厳しいと言いながら、非常に町財政のそのチェックは甘いとは私は思っております。

それから、茂原前山線についてもですね、必要性は認めるものですね、私は422から7軒か8軒の皆さんのところの、そこへ入る6,000万円ぐらいの工事で私十分だと思うんですよ。それについても緊急性を要しないならば、将来的な課題として凍結すべきだと私は思います。そういうふうには私は非常に甘いと思うんですよね。町長の考え方で。

それよりもむしろ、町長がおっしゃった、町長の回答にありましたですね、東南海地震対策によるその学校耐震についてですね、なぜこう2年も3年もかかって、緊急を要する問題であるにもかかわらず、紀北中学校を除いて22年までかかるというふうな、なぜそういうふうに向こう3年間かかるというような考え方を示しておる、考えておるのかという答弁を、お願いしたいと思います。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

先の議会においても申し上げたと思っておりますけれども、議員の主張されるのはですね、道路において緊急性を要するものとおっしゃいますけれども、私はこの2つの小山山側線と茂原前山線についてはですね、長年、構想をされ住民が要望してきたものであり、これは長期の展望に立ったものでもあるし、また1つはですね、救急、それから防災も関連しており

ますので、私はこれを議会に提案し、認められたものでありますので、今それを見直す考えは持っておりません。

それから、考えは甘いとか、辛いそれはあなたのご私見で結構でございます。

それから、教育施設の3年間は長いとおっしゃいますけれども、これは地震防災対策特別措置法の一部改正が3年間の時限で国が決めておりますので、その間にですね、この学校整備、耐震補強、改築等をやっていこうとするものでありまして、私はこれは適切な対応と考えております。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

もっと早くできるんじゃないですか、してはいけないんですか。これは例えば1年間なり、3年間になってますけども、1年なり2年でやってはいけないんですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

やってはいけないはないんです。やれたらやったほうがいいと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

私の試算ではですね、紀北中学の問題はさておきましてですね、一気にやればですね、2億7,000万円で済むんですよ、一気にやれば。相小はすでに予算化されているわけですから。相小と紀北中学校を除いてですね、一般財源及び過疎債のその裏をトータルするとですね、2億7,000万円で一気にできるんです。生徒の命のことを考えるならば、将来の紀北町のことを考えるならばですね、当然、これは今緊急性のない小山山側線とか、茂原前山線を凍結してでも、先送りしてでもですね、この学校耐震の問題を一気に私はやるべきだと思いますよ、町長いかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

学校の耐震と改築につきましては、補助金の枠がございますので、それに沿って工事を進

めてまいりたいと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

あなたは十分精査をされていないですよ。学校耐震化計画について、一般財源及びその地方債の中のこれ20年ですね。あるいは10年で終わるかもわかりません。すべてトータルをして、その過疎債を使うとするとですね、トータルさきほど言いましたように2億7,000万円で済むんですよ、これは。先にこういうことやるべきじゃないですか、ほかの予算をですね、緊急性のない予算を凍結してまでも。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

申しましたとおり、国の制度に補助金ですね、補助金に乗って、この事業を進めてまいりますんで、また議員が考えられておられることは、今ちょっと飲み込めませんので、後刻でも結構ですから、教えていただきたいと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

試算表はそうすると後日出すということによろしいですか。それでそれを検討していただくと、それで1年でできるものであれば1年ですと。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

その辺の事業の補助金との絡みについては、担当課長に答えさせます。

川端龍雄議長

世古学校教育課長。

世古雅則学校教育課長

ただいまの奥村議員さんのご質問ですけれども、先般、お示しさせていただきました学校耐震化事業計画に基づきまして、少し説明させていただきます。

町内すべての学校施設をですね、耐震調査をした結果なんですけれども、補強、改築等必要

のある校舎期間等でございますけれども、それをすべて耐震化を図りますと、事業費ベースでは16億 5,000万円ほどに概算ですけれどもなります。

また、それに伴います、これは相小も含めてですけれども、それに伴います国庫補助金ベースでは4億 9,400万円、それと地方債につきましては7億 6,300万円、一般財源につきましては3億 9,600万円という概算ですけれども、そういう事業費になっております。

ただ、さきほど言われましたように、起債につきましては、合併特例債を充てると仮定いたしましたら95%充当されます。それとまた交付税算入が70%ございますので、補助率に換算しますと、随分高い補助率になるのではないかなというふうに思っております。以上でございます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

奥村さんおっしゃるお気持ち、議員のおっしゃるお気持ちはよくわかるんですが、単年度でやれというお考えでしょうけれども、行政側としてはですね、それだけに、今課題になっている耐震化、あるいは改築それだけで予算を投入するということではなくて、まだほかにもですね、福祉もあれば産業振興もありますので、その辺はご理解をいただきたいと思いません。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

理解はできません。生徒の命と健康が極めて最重要であると私は思っております。

そして町長もそのように、私の12月の質問でそのように答えているはずですが、時間がございませので、次に。

町長、あなたは12月の議会の答弁でもですね、東南海津波対策は最重要課題だと言っておりますけれども、あなたはその県がこの予算をいくらとタワーとか避難路についての予算はいくらだとお考えですか、ご存じですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

予算はその事業をですね、詳細に精査して積算しなきゃわかりません。ですから、したが

って、何がいくら、これはいくらというところまで進んでおりません。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

議事進行です。県の予算は私は言っているんです。県の全体の予算。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

それは、現在わかっておりません。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

突然の質問ですね、困惑されたかと存じますけども、5,000万円なんですよ。三重県全体でね。そしてあなたはこの5,000万円、はっきり言えばもう尾鷲と紀北町の分ぐらいしかないんですよ。あなたはこの金額を上げるためにですね、こんなことでは困るんだということで、県へ陳情されたことありますか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

県に要望する場合には、きちんと事業を名前を付けてですね、内容を説明して要望いたします。現在のところ、議員が言っておられる5,000万円については、私ちょっとまだつかんでいないところがあります。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

これこそですね、町長が県へ行って陳情する等してですね、避難道とか、あるいはタワーを、小規模タワーなりタワーを新設するためのね、陳情を私はすべきやと思いますよ。タワーについても東長島呼崎で2基、西長島でも2基して、私の町の長浜でも小規模のが1基、最低これだけは要ると思うんですよ。あなたのその最重要課題と言っておきながらですね、この東南海地震対策に対する取り組みは極めて甘いと思うんですが、いかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

東南海地震に対する安全・安心を得るための対策は、甘いとは自分で自認しておりません。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

甘いじゃないですか、わずか 1,000万円や 1,500万円ですずっと推移してきておるじゃないですか。それだけで足らんでしょう。随分残っているじゃないですか、今言いましたように、西長島でも2基ぐらい。呼崎で1基、東紀伊長島で1基、長浜で1基と、最低これだけは要るし、まだその公共の施設へのらせん階段状の避難道とかね、あるいは山への避難道とか、やらんならんことは山ほどあるんですよ、これは。

あなたは人命のこと考えるんだっただけです、あなたはもっと積極的に私は動いてほしいし、動きべきだと思うんですが、動かなくていいということですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

予算の配分については、行政側でよく精査して予算を決めてまいります。ですから、防災対策、教育対策、いろんな対策の中で整合性を求めていくわけですから、あなたのおっしゃることだけではないということ、ご認識いただきたいと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

県へ行ってですね、紀北町の実態を話をして、この枠では駄目だと、もっとくださいと、あなたは言うべきだと、私はそう言っているんですよ。いかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

大局的にはですね、県に対して要望するのは私としては慣れておりますし、努めておるところであります。これを具体的にこの事業、あの事業ということは、まだ今のところ決まって

おりません。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

先般の某議員の質問の中で、あなたは乳がんのですね、私、今言いましたように、緊急性のない予算を削って、命と健康を守る予算に注ぎなさいということの中でのことなんです。先般の某議員のことで、乳がんは隔年で十分だというふうにおっしゃられましたけども、根拠言ってください。

川端龍雄議長

五味福祉保健課長。

五味啓福祉保健課長

町長がですね、6月の答弁でも議員さんの質問にお答えしたと思うんですけども、いわゆる厚生労働省からの指針で、隔年でいいと、隔年で十分検査が受けられるというふうな答弁だったかと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

何でもかんでも国の政策はですね、指導が正しいと思っているから、あなた方間違うんですよ。水俣病でもそうだったでしょう。国の方針が完全に間違っていたじゃないですか。あるいはその産業廃棄物のRDFの噴き出すダイオキシンにしたってですね、私前にも申し上げましたように、ドイツでは廃棄物の灰ですら数百m下へ埋めている。あるいは最新情報で摂南大学の教授のテレビの間出てましたよね。最新情報では、数値を0.1に押さえ込んでいてもですね、ある日突然、1週間後、2週間後については10億とか20億に跳ね上がっておる事例が、最新鋭機を導入しているスイスでも出ているんですよ。あなた何でもかんでも国の言うことが正しいと思うからおかしくなっちゃうんですよ。

昨日、日本的権威である愛知県がんセンターの乳腺科の先生にお聞きしました。その結果、早期の治療の点、結論としては1年ごとにやることについて軍配を上げているんですよ。愛知県がんセンターの先生がですね、この間、乳腺科の、昨日聞いたのは教授かどうか知りませんが、日経新聞だったと思いますけど、大々的に乳腺科の先生が乳がんについて述べているんですよ。

その述べていることについて聞きたいと思って、昨日電話をしたら、1年ごとにやったほうがええという、隔年でええなんて、国の指針は完全に間違っておるんですよ。あなたこういう姿勢を将来転換させなアカんのじゃないですか。何でもかんでも国の言うことは正しい、こんな馬鹿な話ないですよ。答弁求めます。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員のご質問の真意というものは、漠然とは理解することはできます。しかしながら、我々は一般質問の議員から通告を得ておるのは、なぜかと言いますと、そのことについて深く勉強して間違いのないような答弁をしてみたいというのが、この一般質問のやり取りの充実ではないですか。

今、議員がおっしゃっていることは、私はまだ前もって通告はされていませんけども、今、気になるのは国のことは何でも正しいということ、私は信じるなというようなことであるようです。しかしながら、国が決めたことをそれを変えたり、覆したりすることには、一町の首長あたりではとてもそれは難しいことであることは、ご認識いただきたいと思えます。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

別に乳がん毎年やってもいいんじゃないですか、国はやるなと言ってないんでしょう。いわゆるそういう費用対効果の薄い事業よりもですね、教育委員会にも申しあげましたけども、私も朝一番の汽車に乗って、松阪とか津の高校へ長島から通っている優秀な生徒とも話をしました、これは。あるいは判定委員会、奨学金の判定委員会の席でもですね、両中学校の先生からも少なくとも交通費ぐらいはあげてほしいというふうな要望も出ているんじゃないですか。

そういうふうな教育予算、あるいは人間の生命を守る予算をあげずにですね、そういうところへ僕は今、財政出動を不必要な財政を止めてですね、そういうところへ、人間の命と健康を守るところへ注ぎ込みなさいということを私は言っているんですよ。何もやってないじゃないですか、あんだけ申しあげているのに。奨学金の見直しについても文書も出しています。これも1つの例なんですけどもね。そういうふうなところへ予算を注ぎ込みなさいと、注ぎ込んでいるのが本当じゃないですかというふうに、私は言っておるわけでありまして、あな

たはその質問に対してまともに答えてないんじゃないですか。

その放漫なことよりも、もうちょっと住民の命と健康と福祉を守ることに目を向けて、そこへ財政を当然注ぎ込まんといかんのじゃないですかということ、私は言っておるんです。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員の趣旨はおおむね理解しました。しかしながら、我々は町単独で事業をすることも必要ですけれども、国、県の補助事業へ乗って広く町民の皆様に効果が出るような事業も探しております。そういうわけで、財政力の小さな町としてはそうせざるを得ない。しかし、町民の命、あるいは福祉、安全を守っていくためには、そのような最大限の配慮をいたしております。以上です。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

してないから、私はこういうふう一般質問の貴重な場を通して言っているんじゃないですか。してないじゃないですか、乳がんだって、早期治療すれば助かるものが、隔年になったら助からないことだってあり得るんですよ。どうなんですか、その点は。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員が私に対してこれをやりなさいと言ったときに、私はそれを、はいそうですか、やりますということは義務付けられてますか、違うでしょう。私たちが行政の中で議論して、これは町に適切だということを議論して対応するのが本当じゃないんですか、以上です。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

町民の皆さんが答弁に対してどう言ってみえますか、あなたすべて検討するとか、後ほど考えますとか、あるいは抽象的な表現ですべて逃げるわけですよ。ここで検討するなら検討するでいいですよ。だったら議員を呼んでですね、議員も住民の代表なんですよ。負託を受けた。さらに身近なことはよく知っています。この真意は何ですかと、それで実現できるも

のは実現するという方向で、あなたはここで検討するにしてもですね、あなたは別個でやっぱり対議員に話をしてですね、真意を聞き、そして実現できるものは実現するべきだと思うんですが、いかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

議員のご指摘だとか、ご提案については真剣にそれを受け止めて、それを協議して対応しておるつもりでございます。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

対応してないから、こういうふうな十何項目の要望書を出すわけであって、対応、今後してくれますか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

できるものはいたします。できないものはご勘弁願います。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

私が言っているのは、私のことだけじゃなしに、一議員じゃなしにですね、19年度のその紀北町だけの要望書でこれだけあるわけですよ。各議員の方にはその要望が肩にかかっておるんですよ。要望出されたらですね、検討するのあと、検討しなきゃわからんと思います。検討のあと、その精査を、精査をするなかで議員の意見も聞いて、今後やってほしいと思いますけど、いかがですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

要望に対しては真剣に受け止めて、よく精査をさせていただきます。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

議員のその考え方を聞くつもりはないですか、議員が一番よく知っているんですよ。議員は住民から要望を受けて言っているだけじゃないんですよ。精査をしているんですよ。私も何回も山へ入りましたよ、自分の裏の山には。どうなんですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

要望には説明は付いているものと思っております。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

時間がないと思われまますので、最後の質問に入りたいと思いますけども、さきほども雇用対策で言いましたけども、例えば不用額は18年度ですか、2億円近くあったと思いますけども、今回も12月になればですね、3月までのその不用額がどれぐらいになるかというのはわかると思うんです。そういうことも含めて、その雇用対策を真剣に考えるつもりはないですか。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

不用額をですね、流用するのは限度がありますんで、雇用対策についてはよく考えて、できる範囲で対応いたします。

川端龍雄議長

奥村武生君。

19番 奥村武生議員

流用しろとは言っていないですよ。12月の本当は議会の中でですね、今回の議会の中で減らすものは減らし、組み替えるものは組み替えして、現在必要なものに対して予算を付ける必要があるんじゃないですかというふうに、私は言っておるんです。

その中で今、重要課題は再雇用対策ですから、例えばですね、町有林のたくさん持ってますね。それで間伐とか植栽とかですね、枝打ちとか、多くの仕事があると思うんですよ。だ

からある面では町外から町内ですか、うちの組合員じゃなしにですね、エキスパートを3人なり4人なり頼んで、それでその指導のもとに仕事を求めている人を大量に採用してですね、町有林を整備することだって可能だと思うんですけども、いかがですか、その提案については。

川端龍雄議長

奥山町長。

奥山始郎町長

いろいろなご提案をいただきますが、それも必要性、それから財政、それからどのような方法、いろいろ皆様から不公平にならないような、町民の皆様が納得できるような方法をとらなくてはいけませんので、よく考えてまいりたいと思います。

川端龍雄議長

奥村武生君、もう残り時間1分を切りましたので、まとめてください。

19番 奥村武生議員

いろんな面でその提起をさせてもらいましたけども、多くの面で極めて不満足であったというふうに私は考えます。

後日はまた、新聞等で非難じゃなしに、私だったらこうするというを書かせていただきますし、私は前もって申し上げましたように、皆さんに是非腹に入れてほしいのはですね、海山区の奥にある尾根から尾根までのその水がですね、表流水、伏流水、そして地下水となって、ここの熊野灘に流れ込んでいるわけです。そして伏流水の湧き出ているところをご存じの方もいらっしゃるんですよ。それが魚付林なんですよ。魚付林と言います、この魚付林に魚がついているわけなんです。だから地下水なんか無茶苦茶とれば、その魚付林が破壊されるし、環境が条例をつくってでも環境を守らないと、条例を徹底的に住民を守ることを徹底してやって環境を守らないと、命と健康が破壊されるということを、私は前もって言いました。

この条例の趣旨とかですね、魚付林、この魚付林をつくるのに、数千年の年月がかかっておると、だから私は大事にせないかと、このことを思いまして私の質問を終わります。

川端龍雄議長

これで奥村武生君の質問を終わります。

以上で、通告済みの質問はすべて終了しました。

川端龍雄議長

それでは本日はこれで散会いたします。
どうもご苦労さんでした。

(午後 1時 55分)

地方自治法第 123条第 2 項の規定により下記に署名する。

平成 21年 3月 5日

紀北町議会議長 川端龍雄

紀北町議会議員 谷 節夫

紀北町議会議員 世古勝彦